

京都市の人口動態について

1 京都市の人口動態

(1) 京都市全体の人口	P 1
ア 国勢調査人口及び推計人口		
イ 年齢別の人口		
ウ 政令指定都市等との比較		
(2) 区の人口	P 1 2
(3) 国勢統計区（元学区）の人口	P 1 5

2 京都市の自然動態

(1) 京都市全体の自然動態	P 1 9
(2) 区の自然動態	P 2 1
(3) 国勢統計区（元学区）の自然動態	P 2 2

3 京都市の社会動態

(1) 京都市全体の社会動態	P 2 4
ア 日本人、外国人別の社会動態		
イ 年齢別の社会動態		
ウ 転出元・転出先別の社会動態		
(ア) 日本人、外国人の総数		
(イ) 日本人のみ		
エ 社会動態の特徴		
(2) 区社会動態	P 3 4
(3) 国勢統計区（元学区）の社会動態	P 3 7

(参考) 京都市の国勢統計区（元学区）別人口	P 3 9
------------------------	-------	-------

1 京都市の人口動態

(1) 京都市全体の人口

ア 国勢調査人口及び推計人口

京都市の人口は、近年、減少に一定の歯止めがかかっていたが、平成28年を境に減少基調

- 昭和61年に最高値1,479,370人(大正9年国勢調査開始以降)
平成6年にかけて145.8万人まで減少するが、平成17年(京北町合併時)に147万人台を回復
平成17年から令和元年までは147万人前後で推移
新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた令和2年と3年は大幅に減少したが、令和4年は減少幅が縮小 グラフ1

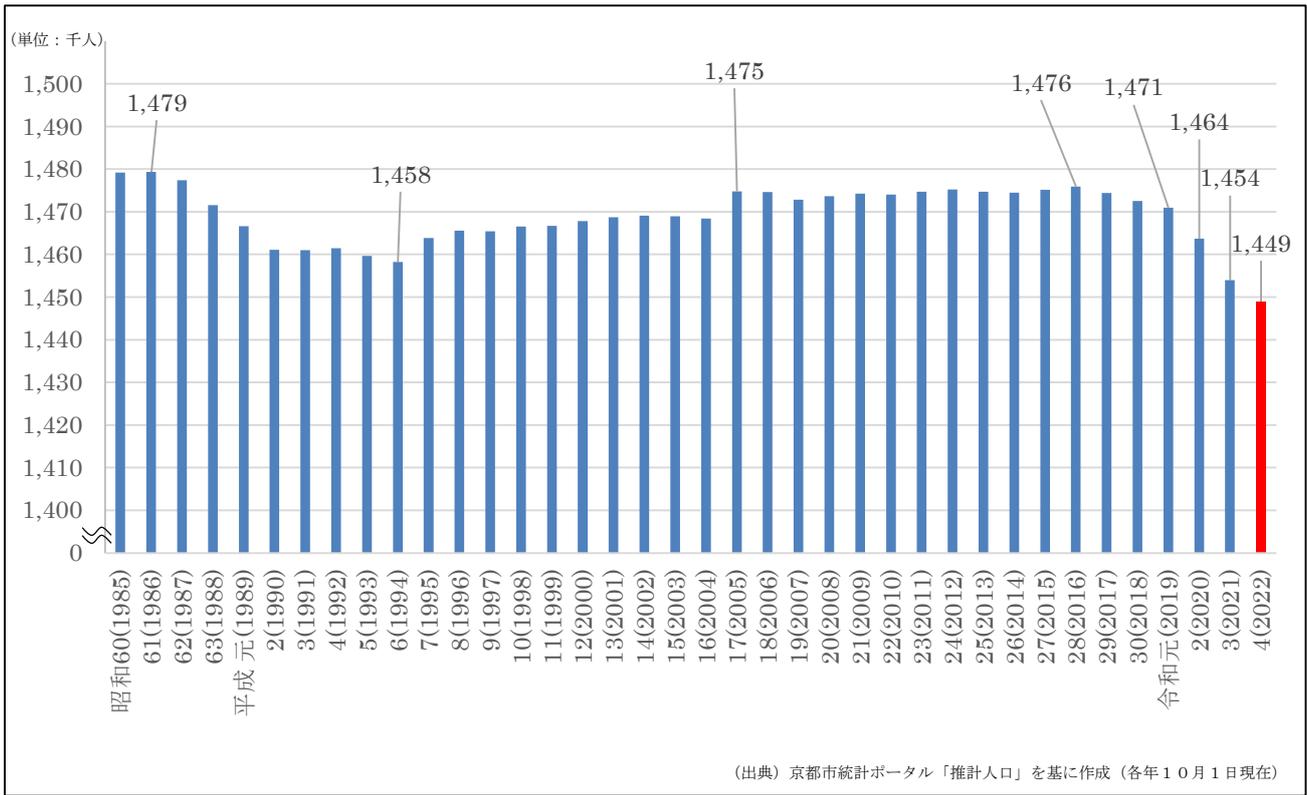
- 日本の人口の最高値は、平成20年の1億2,808万人 グラフ2

- 第2期基本計画策定時(平成21年)に、平成17年(人口:147.5万人)から令和2年までの15年間で約5.9~6.5万人減少すると見込んでいたが、平成23年から令和元年まで転入者が転出者を上回ること、9年連続で社会動態が増加したことから、約1.1万人の減少に留まり、146.4万人と人口減少に一定の歯止めがかかっていた。しかし、「就職期」の東京等への転出、「結婚・子育て期」の転出が顕著であり、さらには、今後も少子化傾向が続くと見込まれ、人口減少局面に入っている。 グラフ3

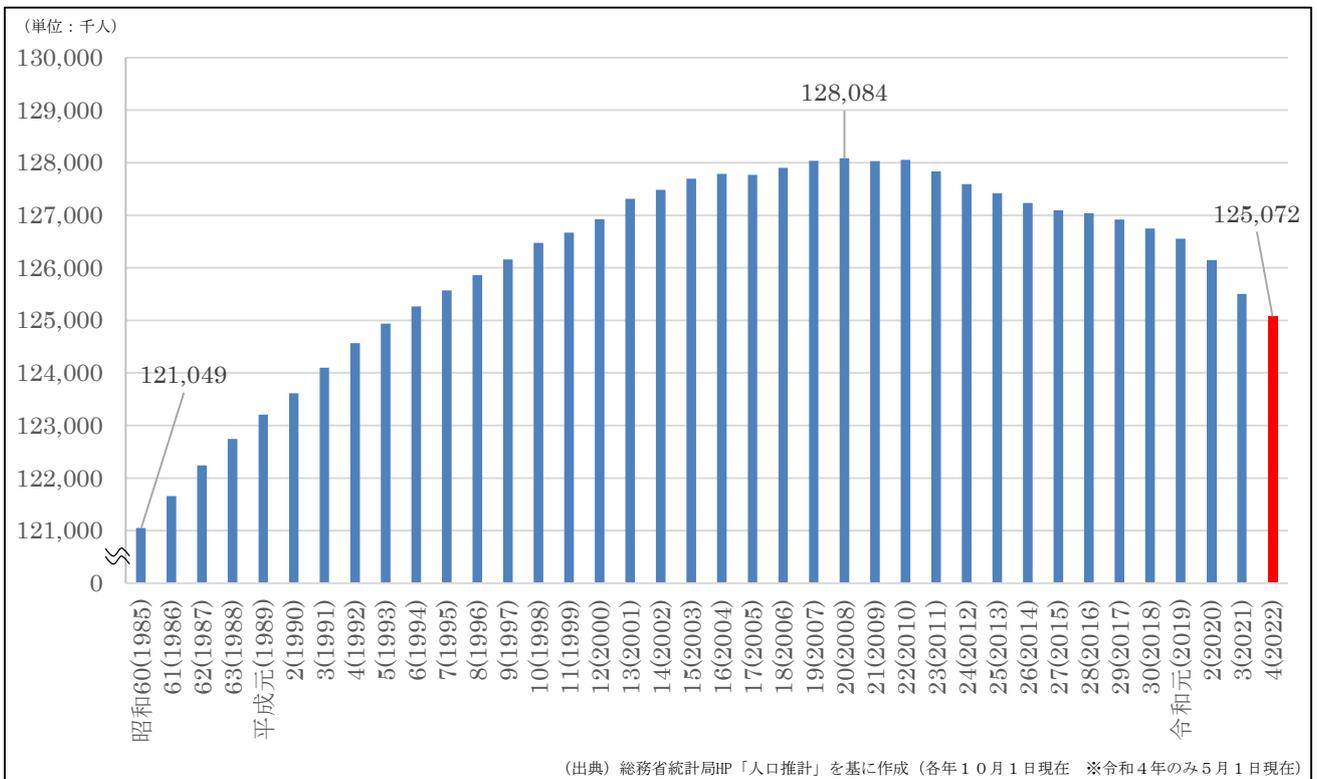
京都市の人口は令和2年と3年に大きく減少。理由はコロナ禍による外国人の入国制限
令和4年には、過去30年で最大の転入超過に転じる

- 令和元年までは社会動態の増により、自然動態の減による人口減少が抑えられていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた令和2年と3年は、社会動態が減少に転じ、人口が大幅に減少
 - その主な要因は、令和元年までは外国人の社会動態のプラスが、日本人の社会動態のマイナスを上回ること、全体の社会動態がプラスとなっていたが、令和2年と3年は、コロナ禍による入国制限等の影響により、留学生をはじめとする外国人の社会動態が大幅にマイナスとなったことによるもの グラフ4
- ※ 外国人の社会動態については、P24(「3 京都市の社会動態」)参照

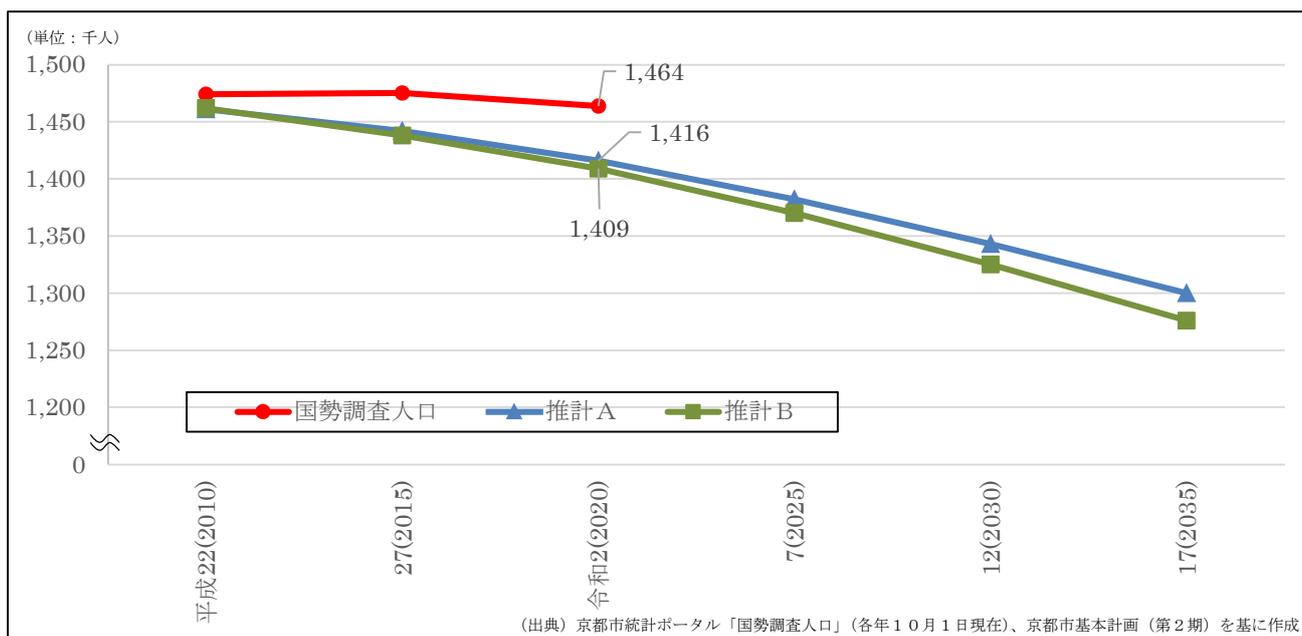
【グラフ1】京都市の人口（昭和60年から令和4年の推移）



【グラフ2】全国の人口（昭和60年から令和4年の推移）



【グラフ3】京都市の人口と第2期基本計画策定時の将来推計人口(※)の比較(平成22年以降の推移)

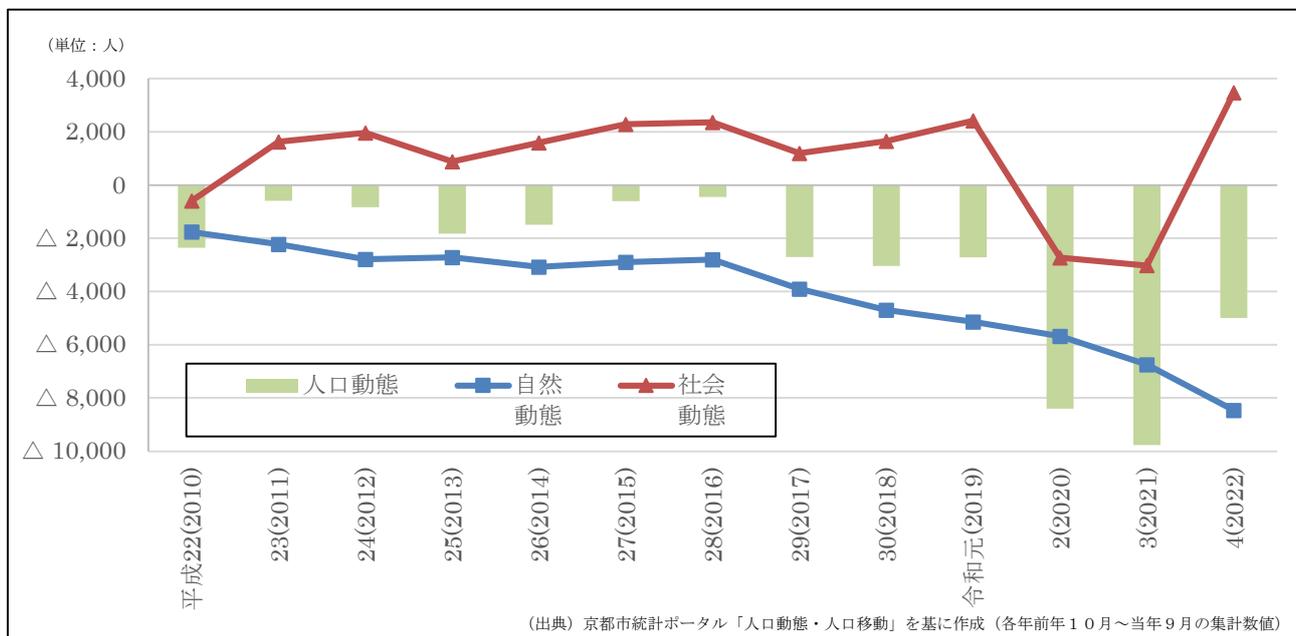


※ 第2期基本計画策定時(平成22年)の京都市独自の将来推計

(推計A) 社会動態が転入超過に転じると仮定して推計

(推計B) 平成12年から17年の社会動態の傾向が続くと仮定して推計

【グラフ4】京都市の人口動態、自然動態、社会動態(平成22年から令和4年の推移)



イ 年齢別の人口

京都市の高齢化は全国とほぼ同傾向。高齢者人口（65歳以上）は約41万人で、3.5人に1人

- 年齢別人口の平成2年から令和4年（32年間）の変化 グラフ5

年少人口（0～14歳）は、約 37% の減

生産年齢人口（15～64歳）は、約 14% の減

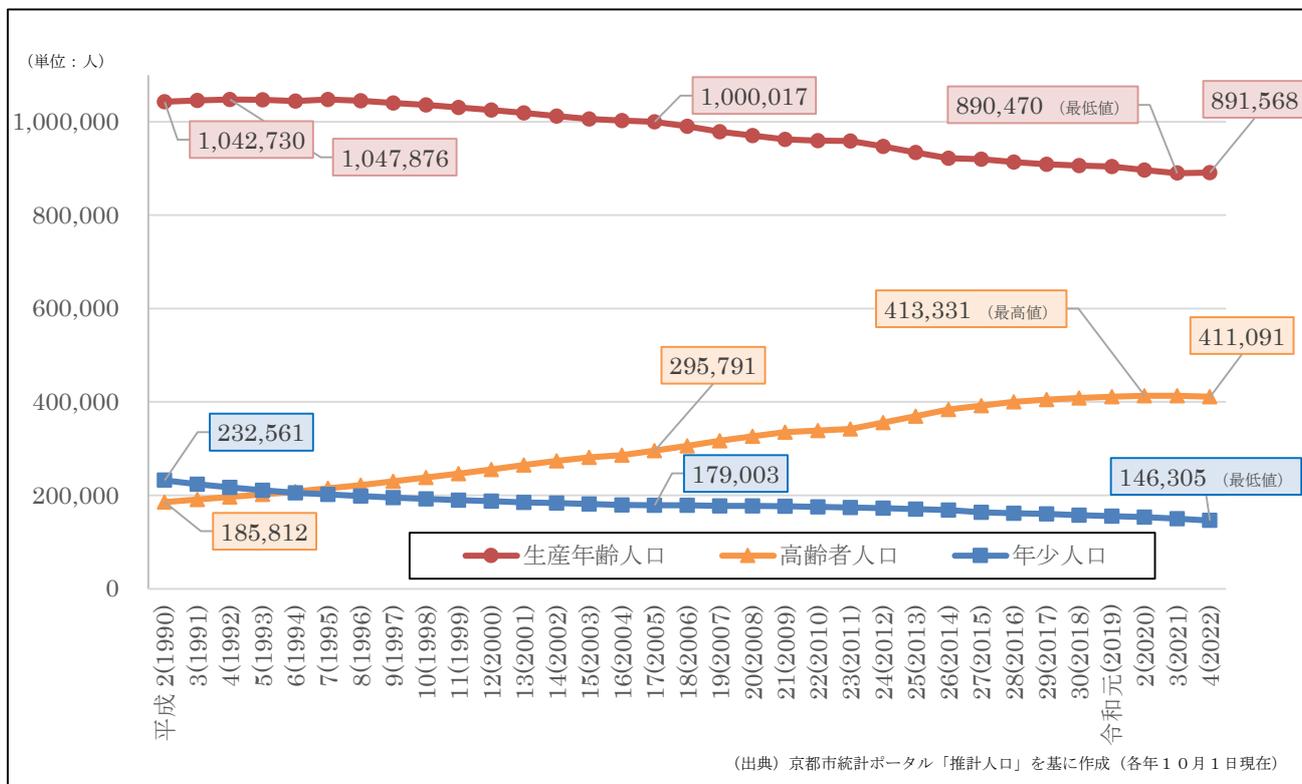
高齢者人口（65歳以上）は、約 121% の増

- 本市の高齢化は全国とほぼ同じ傾向

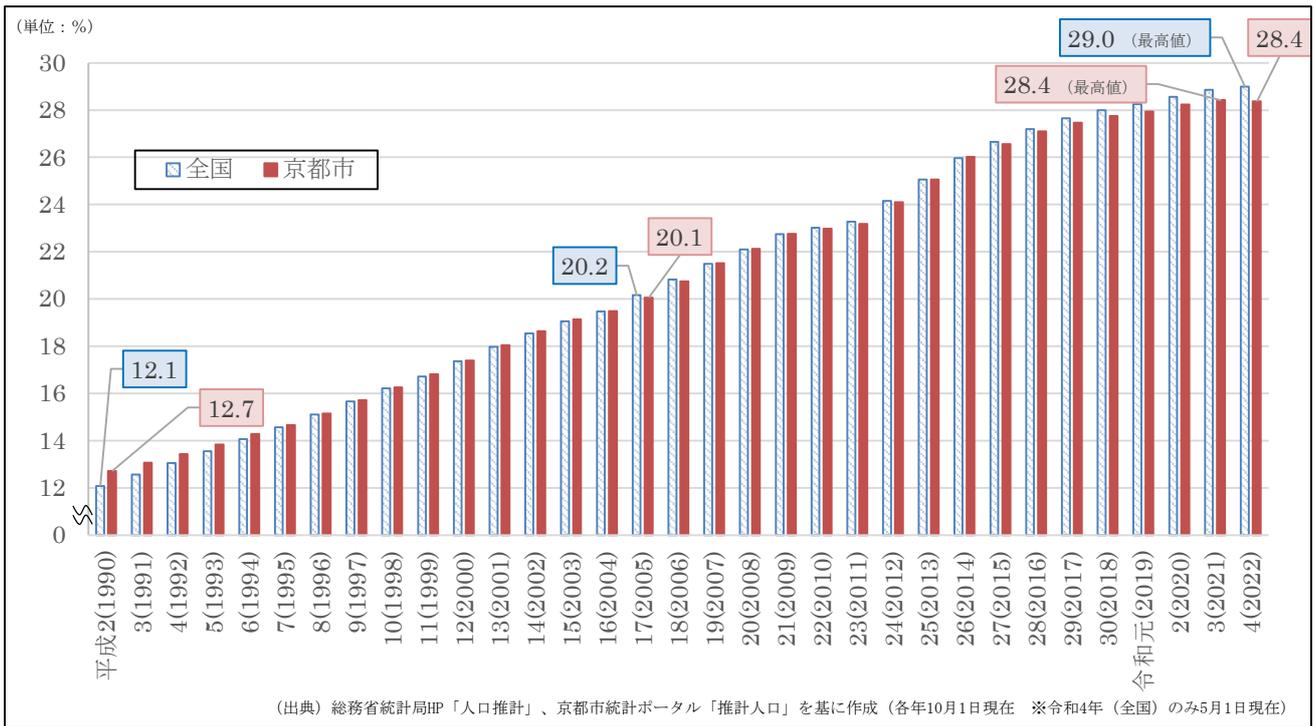
高齢化率は、平成2年時点では全国平均を上回っていたが、平成17年からは全国平均をやや下回っており、高齢化は全国が本市よりやや進行 グラフ6

- 本市の合計特殊出生率は、平成27年、28年をピークに年々減少しており、全国、京都府より低い状況であり、政令市比較でも19番目 グラフ7、表1

【グラフ5】京都市の年少人口、生産年齢人口、高齢者人口（平成2年から令和4年の推移）

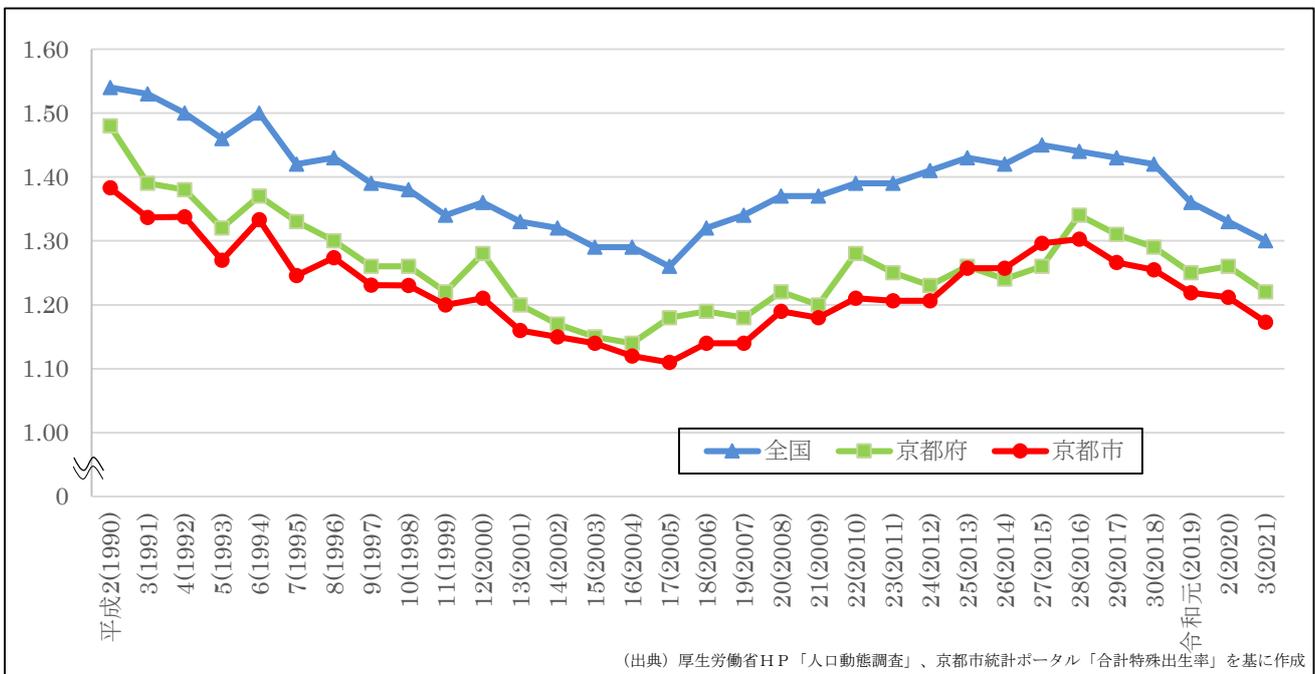


【グラフ6】京都市と全国の高齢化率（平成2年から令和4年の推移）



<参考>出生率

【グラフ7】合計特殊出生率（平成2年から令和3年の推移）



※ 厚生労働省公表の合計特殊出生率と本市公表の合計特殊出生率は、算出方法が異なる。

- ・厚生労働省：国勢調査及び推計人口をベースに計算
- ・本 市：住民基本台帳人口をベースに計算

【表1】合計特殊出生率 政令指定都市比較（令和2年）

	合計特殊出生率	順位		合計特殊出生率	順位
熊本市	1.51	1	神戸市	1.27	11
北九州市	1.47	2	川崎市	1.26	12
浜松市	1.44	3	横浜市	1.25	13
堺市	1.44	3	千葉市	1.24	14
広島市	1.42	5	相模原市	1.23	15
岡山市	1.41	6	福岡市	1.20	16
名古屋市	1.34	7	仙台市	1.17	17
静岡市	1.32	8	大阪市	1.17	17
さいたま市	1.30	9	京都市	1.15	19
新潟市	1.30	9	札幌市	1.09	20

（出典）厚生労働省 令和2年（2020）人口動態統計（確定数）の概況「第3表－2 人口動態総覧（率），都道府県（特別区－指定都市再掲）別」を基に作成

ウ 政令指定都市等の比較

京都市の人口は、神戸市、堺市と同様に減少しているが、減少幅はやや緩やか
道府県人口に占める割合は全国一高く京都府人口の約6割

グラフ 8

グラフ 9

- 人口の平成22年から令和4年（12年間）の変化

グラフ 10

関西圏の状況 京都市、神戸市、堺市：減少 大阪市：増加
政令市全体 増加

- 生産年齢人口比率の平成22年・27年・令和2年の比較

グラフ 11

関西圏の状況 京都市、神戸市、堺市：減少 大阪市：横ばい傾向
政令市平均 減少

- 高齢化率の平成22年・27年・令和2年の比較

グラフ 11

関西圏の状況 京都市、神戸市、堺市：増加 大阪市：横ばい傾向
政令市平均 増加

全国815市区中、京都市の人口は8番目。昼夜間人口比率は政令市20市中4番目

表 2

- 政令市中、経済や社会的な活力を有していることを示す昼夜間人口比率は4番目と高い。

令和2年と3年の京都市の人口は、減少数は全国最多となったが、減少率は全国で中位
令和4年には過去30年で最大の転入超過

表 3

- 全国815市区における住民基本台帳人口の令和4年1月1日の状況

本市の人口増減数 全国で最多の△11,913名（2年連続最多）

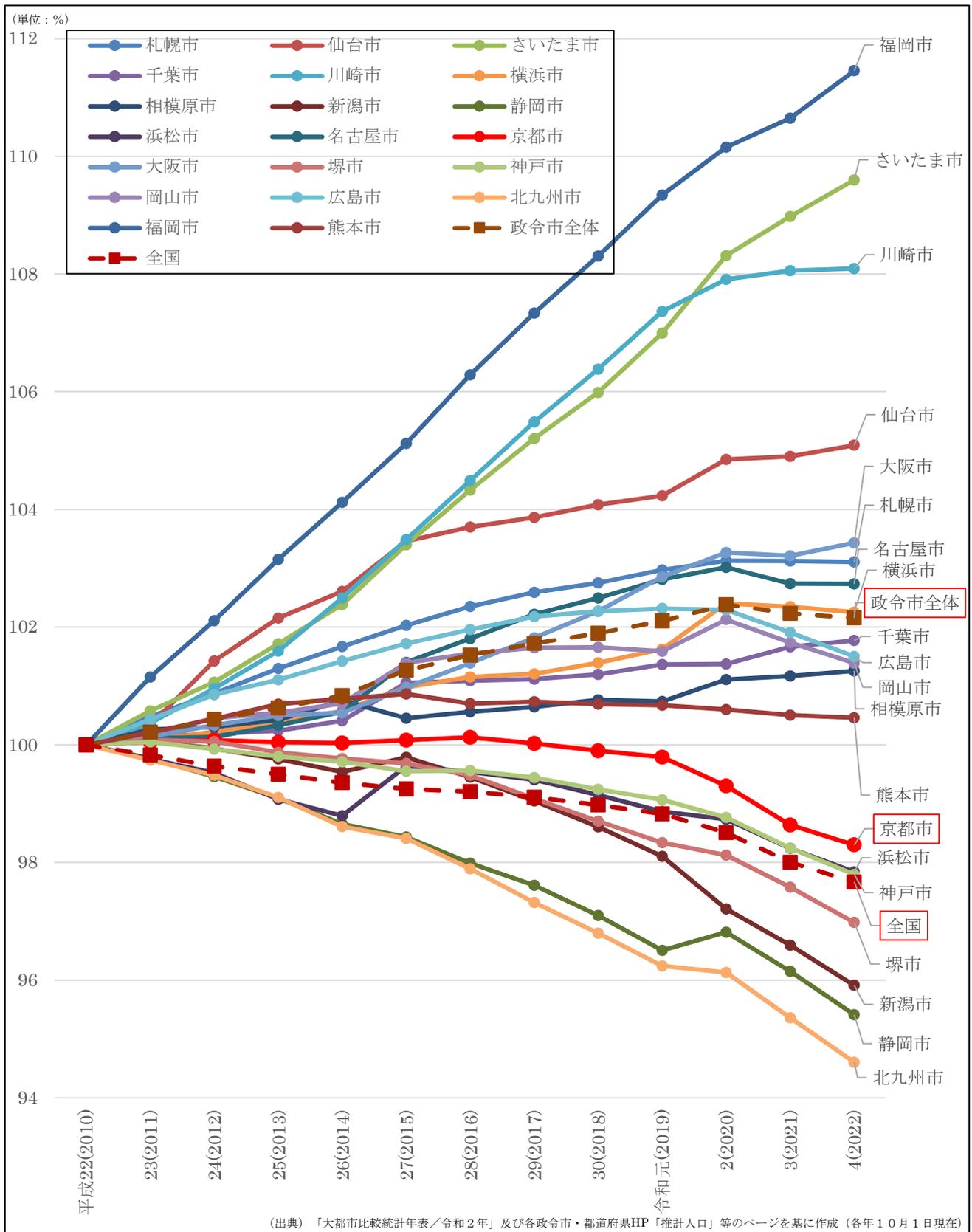
本市の人口増減率 全国でほぼ中間に位置する412番目

（減少率△0.85%、全国平均△0.57%）

- 本市の人口減少数が令和2年と3年に全国最多となったのは、近年、社会動態の増により、自然動態の減による人口の減少が抑えられていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、社会動態も減少に転じたため。
- さらにその要因は、令和2年と3年は、コロナ禍による入国制限等の影響により、留学生をはじめとする外国人の転入者が大幅に減少したことによるもの。
- 直近の令和4年は、3年ぶりに、転入者が転出者を上回っており、外国人の入国制限が緩和されるに伴い、国外からの転入者が大きく戻り始め、社会動態が3,471人増と過去30年で最大の転入超過に転じている。
- 本市の人口減少数が2年連続で全国最多となったことは事実であるが、減少数については、上位10市区中8市が政令市であるなど、人口規模の大きな自治体が上位となる傾向がある。一方、減少数と比較し、その自治体の持つ人口規模に応じた減少の度合いが的確に表現できる減少率については、全国でほぼ中間程度の順位に位置している。

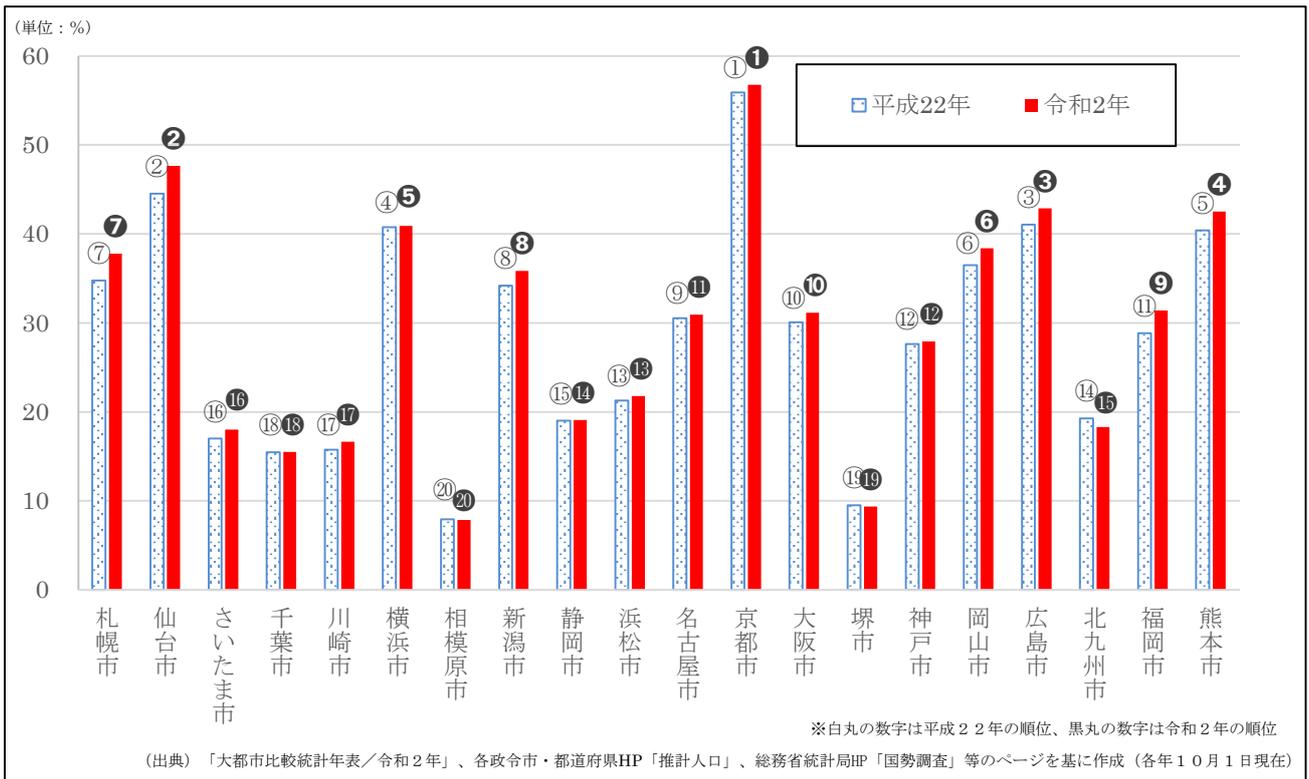
(ア) 政令指定都市との比較

【グラフ8】政令指定都市の人口増減率（平成22年から令和4年の変化）

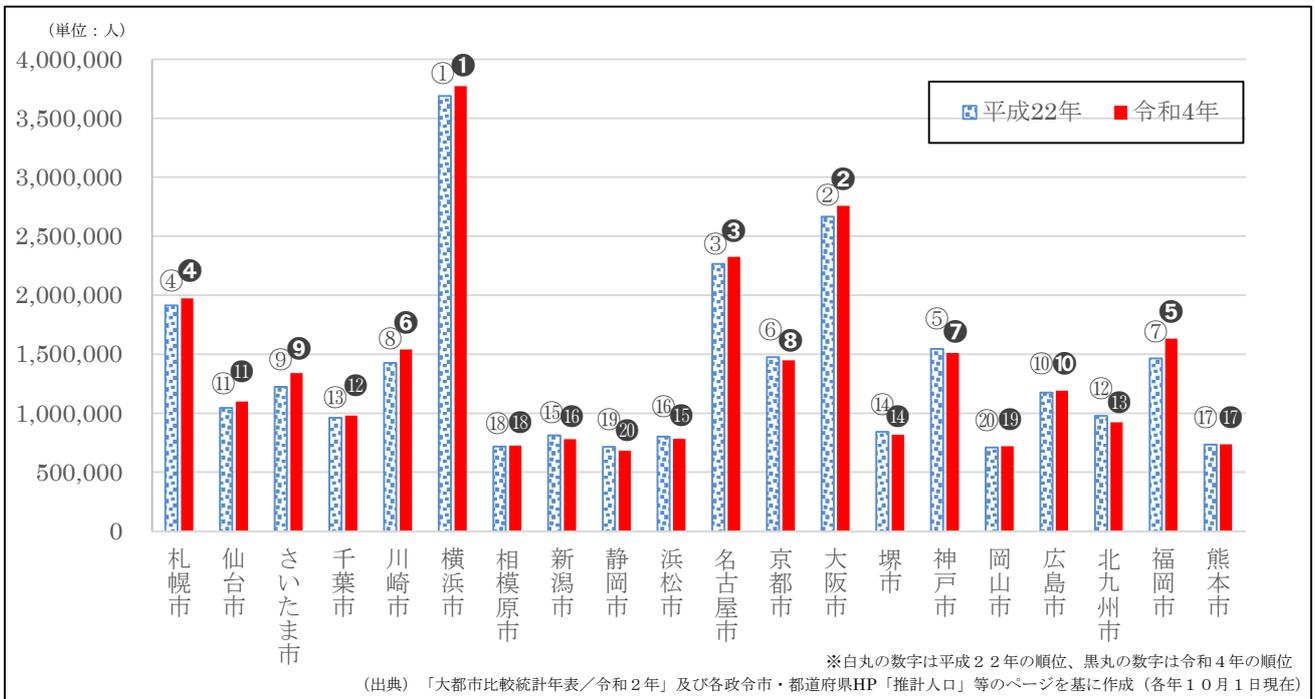


※ 平成22年を100としたときの増減率

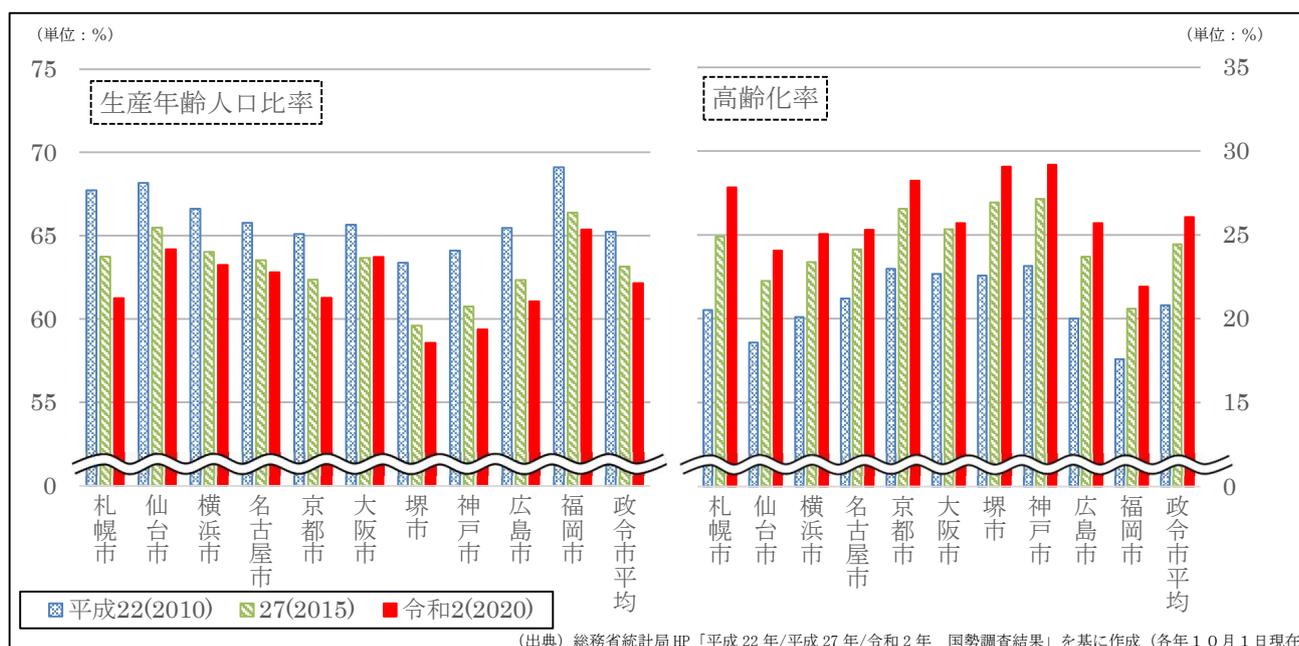
【グラフ9】道府県人口に占める政令指定都市の人口の割合（平成22年・令和2年の比較）



【グラフ10】政令指定都市の人口（平成22年・令和4年の比較）



【グラフ11】主な政令指定都市の生産年齢人口比率と高齢化率（平成22年・27年・令和2年比較）



【表2】昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率（平成27年・令和2年比較）

順位	政令指定都市	昼間人口		夜間人口		昼夜間人口比率	
		平成27年	令和2年	平成27年	令和2年	平成27年	令和2年
1(1)	大阪市	3,604,478	3,645,921	2,691,185	2,752,412	133.9	132.5
2(2)	名古屋市	2,594,841	2,609,745	2,295,638	2,332,176	113.0	111.9
3(3)	福岡市	1,705,028	1,769,643	1,538,681	1,612,392	110.8	109.8
4(4)	京都市	1,610,077	1,594,930	1,475,183	1,463,723	109.1	109.0
5(5)	仙台市	1,147,592	1,154,586	1,082,159	1,096,704	106.0	105.3
6(6)	岡山市	746,795	747,281	719,474	724,691	103.8	103.1
7(7)	静岡市	726,526	713,745	704,989	693,389	103.1	102.9
8(8)	神戸市	1,576,599	1,564,007	1,537,272	1,525,152	102.6	102.5
9(9)	北九州市	984,519	959,146	961,286	939,029	102.4	102.1
10(11)	新潟市	821,867	798,479	810,157	789,275	101.4	101.2
11(12)	広島市	1,210,470	1,213,104	1,194,034	1,200,754	101.4	101.0
12(10)	熊本市	753,492	746,115	740,822	738,865	101.7	101.0
13(13)	札幌市	1,952,057	1,968,338	1,952,356	1,973,395	100.0	99.7
14(14)	浜松市	792,567	784,884	797,980	790,718	99.3	99.3
15(15)	千葉市	944,023	946,610	971,882	974,951	97.1	97.1
16(16)	堺市	782,117	770,547	839,310	826,161	93.2	93.3
17(18)	横浜市	3,369,948	3,440,070	3,724,844	3,777,491	90.5	91.1
18(17)	さいたま市	1,155,613	1,204,080	1,263,979	1,324,025	91.4	90.9
19(19)	相模原市	619,393	625,027	720,780	725,493	85.9	86.2
20(20)	川崎市	1,252,752	1,285,285	1,475,213	1,538,262	84.9	83.6

※ 順位は、令和2年の昼夜間人口比率による。（ ）は平成27年の昼夜間人口比率による。

不詳補完値（集計結果に含まれる「不詳」をあん分等によって補完した数値）による。

（出典）総務省統計局HP「国勢調査時系列データ」、「令和2年国勢調査」を基に作成

(イ) 全国の自治体（815市区）との比較

【表3】市区別の人口減少数及び率（令和3年1月～12月）

人口増減数			人口増減率		
順位	市区名	人	順位	市区名	%
1	京都市 (京都府)	△11,913	1	夕張市 (北海道)	△5.05
2	神戸市 (兵庫県)	△9,208	2	歌志内市 (北海道)	△3.41
3	北九州市 (福岡県)	△8,126	3	えびの市 (宮崎県)	△2.91
4	大阪市 (大阪府)	△7,766	4	土佐清水市 (高知県)	△2.89
5	名古屋市 (愛知県)	△7,512	5	室戸市 (高知県)	△2.87
6	江戸川区 (東京都)	△6,384	6	高梁市 (岡山県)	△2.86
7	広島市 (広島県)	△5,668	7	輪島市 (石川県)	△2.86
8	長崎市 (長崎県)	△5,389	8	尾花沢市 (山形県)	△2.85
9	堺市 (大阪府)	△5,323	9	赤平市 (北海道)	△2.84
10	静岡市 (静岡県)	△5,217	10	垂水市 (鹿児島県)	△2.79
	(上位10市区中、8市が政令指定都市)		∴		
			412	京都市 (京都府)	△0.85
			∴		
				(815市区中)	

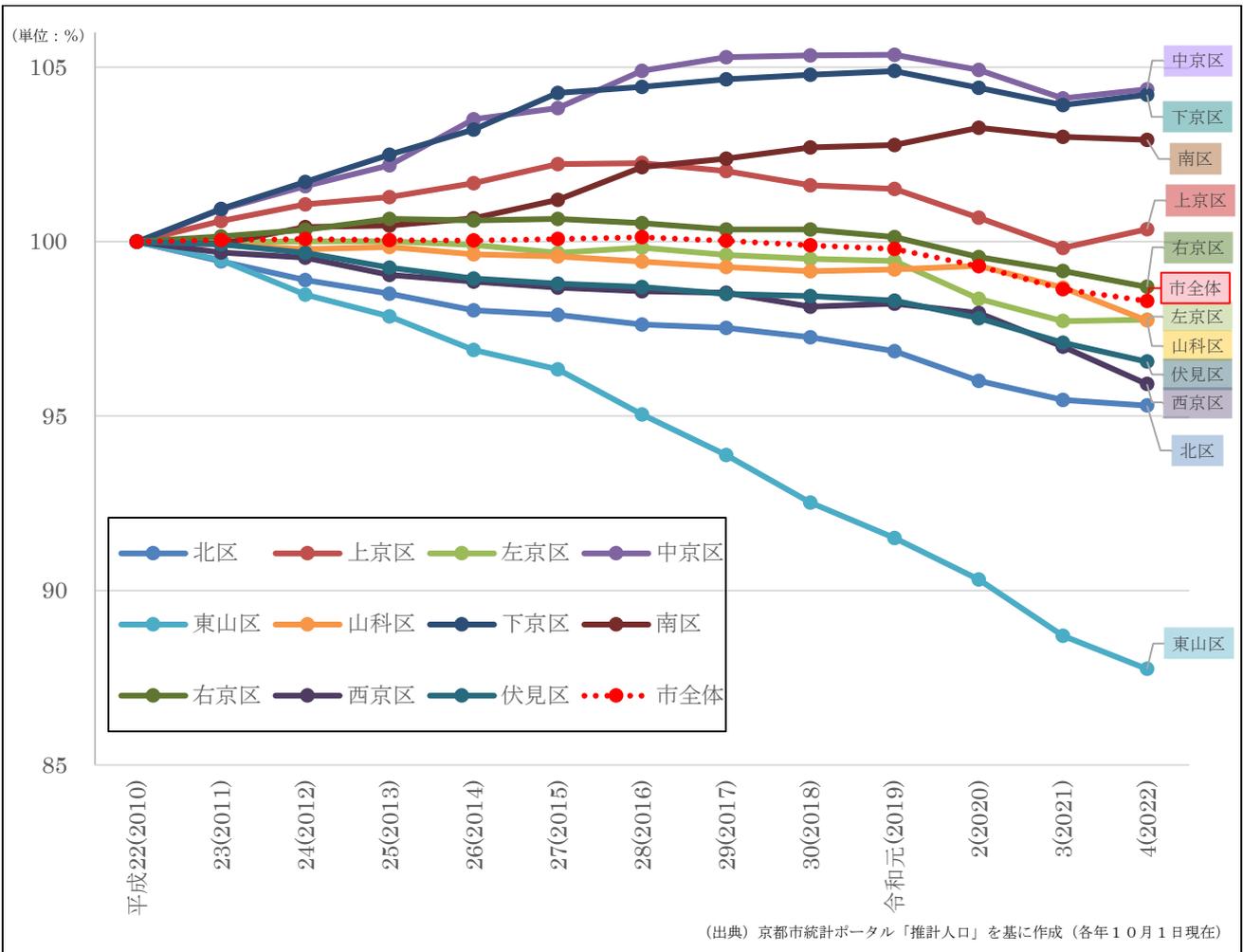
(出典) 総務省 「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」を基に作成

(2) 区の人口

上京区、中京区、下京区、南区で増加、その他の行政区は減少

- 平成22年から令和4年の変化 グラフ12、13
 人口が増加した4区 上京、中京、下京、南
 人口が減少した7区 北、左京、東山、山科、右京、西京、伏見
- 東山区を除く10の行政区は、増加・減少とも±5%の範囲内での変化 表4
 東山区は、約1割の減少
- 人口が減少している区の高齢化率は市平均より高い傾向 グラフ14
- 昼夜間人口比率（令和2年国勢調査結果） 表5
 100を超える7区 下京、東山、中京、南、上京、左京、北
 100を下回る4区 伏見、右京、山科、西京

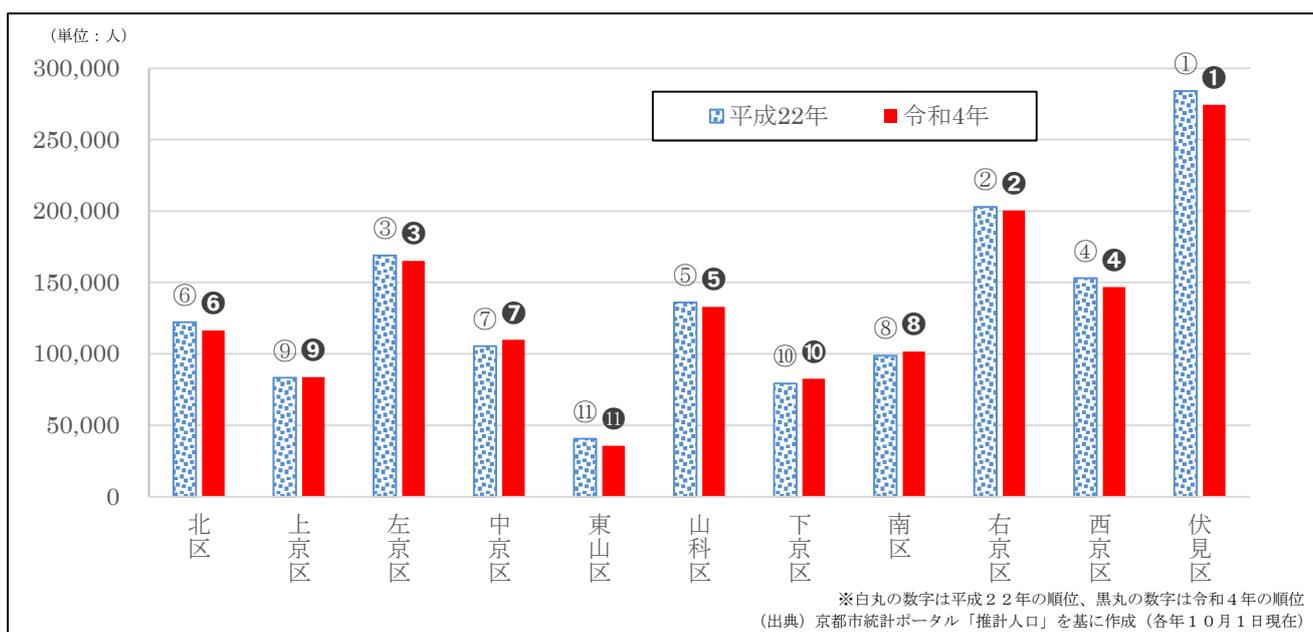
【グラフ12】 区の推計人口の増減率（平成22年から令和4年の変化）



(出典) 京都市統計ポータル「推計人口」を基に作成（各年10月1日現在）

※ 平成22年を100としたときの増減率

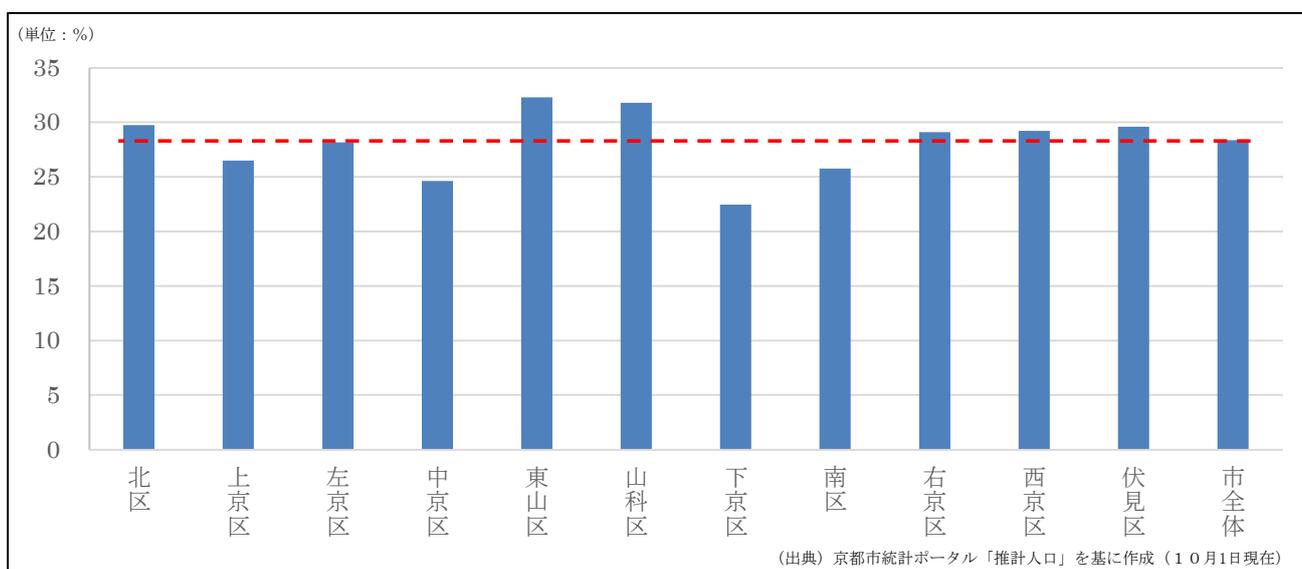
【グラフ13】区の推計人口（平成22年・令和4年の比較）



【表4】区の推計人口の増減率（平成22年・令和4年の比較）

順位	増加		減少	
	行政区	増加率 (実数)	行政区	減少率 (実数)
1	中京区	4.37% (4,598人)	東山区	△12.25% (△4,963人)
2	下京区	4.21% (3,340人)	北区	△4.70% (△5,731人)
3	南区	2.92% (2,884人)	西京区	△4.08% (△6,238人)
4	上京区	0.36% (297人)	伏見区	△3.44% (△9,768人)
5	—	—	山科区	△2.26% (△3,073人)
6	—	—	左京区	△2.23% (△3,771人)
7	—	—	右京区	△1.29% (△2,626人)

【グラフ14】高齢化率（令和4年）



【表5】 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率（平成27年・令和2年比較）

順位	行政区	昼間人口		夜間人口		昼夜間人口比率	
		平成27年	令和2年	平成27年	令和2年	平成27年	令和2年
1(1)	下京区	143,854	142,447	82,668	82,784	174.0	172.1
2(3)	東山区	57,641	55,629	39,044	36,602	147.6	152.0
3(2)	中京区	163,314	160,860	109,341	110,488	149.4	145.6
4(4)	南区	141,070	142,669	99,927	101,970	141.2	139.9
5(5)	上京区	105,524	102,128	85,113	83,832	124.0	121.8
6(6)	左京区	180,498	177,202	168,266	166,039	107.3	106.7
7(7)	北区	127,596	121,663	119,474	117,165	106.8	103.8
8(8)	伏見区	267,380	267,296	280,655	277,858	95.3	96.2
9(9)	右京区	186,125	185,600	204,262	202,047	91.1	91.9
10(10)	山科区	118,637	118,852	135,471	135,101	87.6	88.0
11(11)	西京区	118,438	120,584	150,962	149,837	78.5	80.5
-	市全体	1,610,077	1,594,930	1,475,183	1,463,723	109.1	109.0

※ 順位は、令和2年の昼夜間人口比率による。（ ）は平成27年の昼夜間人口比率による。

不詳補完値（集計結果に含まれる「不詳」をあん分等によって補完した数値）による。

（出典）総務省統計局HP「国勢調査時系列データ」、「令和2年国勢調査」を基に作成

(3) 国勢統計区（元学区）の人口

227学区のうち、約3分の1（85学区）が増加、約3分の2（142学区）が減少

○ 平成22年から令和4年（12年間）の変化

表6、7、参考（P39～43）

① 都心部

都心部は、総じて人口が増加

上京区、中京区、下京区では、一部減少もあるが、総じて人口が伸びている。特に、田の字地区と呼ばれる中京区、下京区の一部では、二桁以上の伸びを示している地域が複数存在（龍池、本能、初音、日彰、修徳、郁文、成徳、永松学区）する。

② 都心部近隣

東部は、外環状線沿線で人口が増加

山科区では、外環状線（地下鉄東西線）を中心とした、五条通（国道1号）以北の地域（西野、山階、音羽川、安朱学区）と、新十条通以南の地域（小野学区）で増加が見られるが、その他の地域は減少傾向にある。

西部は、四条通やJR、阪急電車の沿線で人口が増加

右京区では、四条通やJR、阪急電車の沿線（安井、山ノ内、西院第一、西院第二、西京極西、葛野、梅津学区）で増加が見られるが、四条通より北の地域は減少傾向にある。下京区の西部（西大路、七条第三学区）も増加が大きい。

京都駅南部は、西方面で人口が増加

南区では、京都駅により近い地域（梅逕、東梅逕、九条、九条弘道、山王学区）は減少傾向にあるが、西方向の、JR西大路駅周辺（吉祥院、祥豊学区）で増加するとともに、JR桂川駅の新設に伴い、地区計画を定めて都市機能の集積を図り、新たな開発が行われた久世学区での増加が大きい。

③ 北部山間地域

北部山間地域は、全ての地域で大きく減少

3割以上減少している地域が存在（北区3学区：中川、小野郷、雲ヶ畑学区、左京区1学区：久多学区、右京区3学区：水尾、黒田、宇津学区）。

④ 大規模ニュータウン

洛西ニュータウンは、大きく減少

全4学区とも二桁の減少となっている。2割以上減少が1学区（竹の里学区）、1割以上減少が3学区（新林、福西、境谷学区）。近年、減少幅が鈍化する傾向も見られる。

向島ニュータウンは、大きく減少

全3学区とも二桁の減少となっている。2割以上減少が2学区（向島二ノ丸、向島藤ノ木学区）、1割以上減少が1学区（向島二ノ丸北学区）。近年、減少幅が鈍化の地域もある。

⑤ 特徴的な地域

東山区は、多くの地域で減少

全ての学区で減少しており、それぞれの減少率も高い数値である一方で、経済や社会的な活力を有していることを示す昼夜間人口比率は本市で2番目と高い。

伏見区醍醐は、多くの地域で減少

公的住宅が多い学区（醍醐西、池田、小栗栖、小栗栖宮山、石田学区）では、減少幅が大きい一方で、減少が比較的緩やかな地域がある。

【表6】国勢統計区（元学区）の状況（平成22年・令和4年比較）

区名	学区数	増加		減少	状 況
		増加	減少		
北	19	1	18		減少は18学区（上賀茂以外）、うち1割以上減少は6学区（鷹峯、柏野、金閣、中川、小野郷、雲ヶ畑）
上京	17	11	6		減少は6学区（乾隆、西陣、室町、出水、仁和、翔鸞）、うち1割以上減少は1学区（翔鸞）
左京	26	3	23		減少は23学区（岩倉南、葵、松ヶ崎以外）、うち1割以上減少は7学区（鞍馬、花脊、久多、大原、八瀬、浄楽、聖護院）
中京	23	19	4		減少は4学区（朱雀第七、朱雀第六、立誠、生祥）、うち1割以上減少は1学区（立誠）
東山	11	0	11		減少は11学区（全学区）、うち1割以上減少は7学区（修道、清水、月輪、貞教、新道、弥栄、有濟）
山科	13	5	8		減少は8学区（西野、山階、音羽川、小野、安朱以外）、うち1割以上減少は0学区
下京	23	17	6		減少は6学区（植柳、大内、光徳、稚松、菊浜、崇仁）、うち1割以上減少は3学区（植柳、菊浜、崇仁）
南	15	6	9		減少は9学区（東和、上鳥羽、久世、吉祥院、祥豊、唐橋以外）、うち1割以上減少は4学区（梅逕、東梅逕、九条、山王）
右京	28	8	20		減少は20学区（安井、山ノ内、西院第一、西院第二、西京極西、葛野、梅津、宇多野以外）、うち1割以上減少は10学区（南太秦、水尾、宕陰、御室、黒田、山国、弓削、周山、宇津、細野）
西京	17	5	12		減少は12学区（桂川、桂徳、桂東、川岡、川岡東以外）、うち1割以上減少は5学区（新林、福西、境谷、竹の里、大原野）
伏見	35	10	25		減少は25学区（竹田、板橋、久我の杜、羽東師、淀、横大路、桃山、桃山東、深草、藤城以外）、うち1割以上減少は10学区（美豆、向島南、向島二ノ丸、向島二ノ丸北、向島藤ノ木、醍醐西、池田、小栗栖、小栗栖宮山、石田）
計	227	85	142		減少は142学区、うち1割以上減少は54学区

【表7】国勢統計区（元学区）の人口動態の増減率（平成22年・令和4年比較）

順位	増 加		減 少	
	国勢統計区	増加率（実数）	国勢統計区	減少率（実数）
1	中京区 龍池	31.6% (787人)	北 区 中川	△42.2% (△163人)
2	下京区 郁文	19.5% (706人)	左京区 久多	△39.0% (△39人)
3	右京区 西院第二	18.1% (2,429人)	右京区 黒田	△36.5% (△120人)
4	下京区 成徳	15.6% (415人)	北 区 小野郷	△36.2% (△96人)
5	下京区 永松	15.3% (277人)	伏見区 小栗栖	△33.6% (△1,075人)
6	上京区 小川	15.0% (802人)	右京区 宇津	△32.8% (△151人)
7	南 区 久世	14.9% (3,161人)	右京区 水尾	△32.1% (△18人)
8	伏見区 桃山東	14.8% (1,098人)	北 区 雲ヶ畑	△31.4% (△55人)
9	下京区 七条第三	14.0% (1,082人)	伏見区 向島藤ノ木	△29.0% (△1,385人)
10	山科区 西野	13.8% (680人)	右京区 細野	△27.3% (△123人)
11	中京区 本能	13.5% (664人)	右京区 弓削	△26.2% (△449人)
12	中京区 初音	12.4% (400人)	左京区 花脊	△23.2% (△65人)
13	西京区 桂徳	11.0% (737人)	伏見区 向島二ノ丸	△22.4% (△1,233人)
14	下京区 修徳	10.5% (346人)	下京区 崇仁	△22.1% (△365人)
15	中京区 日彰	10.3% (300人)	右京区 周山	△21.8% (△302人)
16	下京区 西大路	9.6% (361人)	西京区 竹の里	△20.6% (△1,213人)
17	中京区 柳池	9.1% (371人)	東山区 有濟	△20.4% (△430人)
18	上京区 成逸	8.8% (242人)	右京区 宕陰	△18.8% (△41人)
19	右京区 安井	8.6% (609人)	中京区 立誠	△18.7% (△139人)
20	中京区 銅駝	8.6% (254人)	伏見区 醍醐西	△18.7% (△959人)
21	下京区 醒泉	8.2% (379人)	西京区 境谷	△18.5% (△1,191人)
22	中京区 富有	8.1% (188人)	伏見区 池田	△18.0% (△1,136人)
23	山科区 山階	8.1% (595人)	東山区 弥栄	△17.7% (△236人)
24	南 区 祥豊	8.1% (706人)	東山区 修道	△17.7% (△856人)
25	中京区 明倫	8.0% (237人)	左京区 鞍馬	△17.4% (△103人)
26	上京区 京極	8.0% (427人)	東山区 清水	△17.3% (△552人)
27	左京区 岩倉南	8.0% (935人)	西京区 福西	△17.2% (△1,201人)
28	中京区 城巽	7.7% (378人)	伏見区 美豆	△16.0% (△1,014人)
29	下京区 尚徳	7.6% (167人)	南 区 山王	△15.5% (△617人)
30	下京区 有隣	6.5% (280人)	南 区 梅逕	△15.2% (△172人)

※ 本集計は、国勢統計区（元学区）における、平成22年から令和4年の12年間の人口変動の増減率（実数）を示したもの。ただし、左京区岩倉地区の3国勢統計区（岩倉北、明徳、岩倉南）は、平成27年国勢調査時に旧岩倉国勢統計区を3つに分割することにより新設された国勢統計区であり、例外的に、平成27年から令和4年の7年間の期間としている。

※ その他集計上の留意点は、P44（「国勢統計区（元学区）における集計に関する留意点」）を参照

2 京都市の自然動態

(1) 京都市全体の自然動態

平成17年以降、減少が継続しており、令和4年は過去最大(△8,463人)

○ 平成16年の増加(+22人)を最後に、平成17年(△5,255人)以降、死亡数が出生数を上回る状況が継続し、減少幅も拡大 グラフ15

○ 令和4年は、死亡数が17,054人であり、出生数8,591人の約2倍 グラフ16、17

○ 平成2年から令和4年(32年間)の変化 グラフ16、17

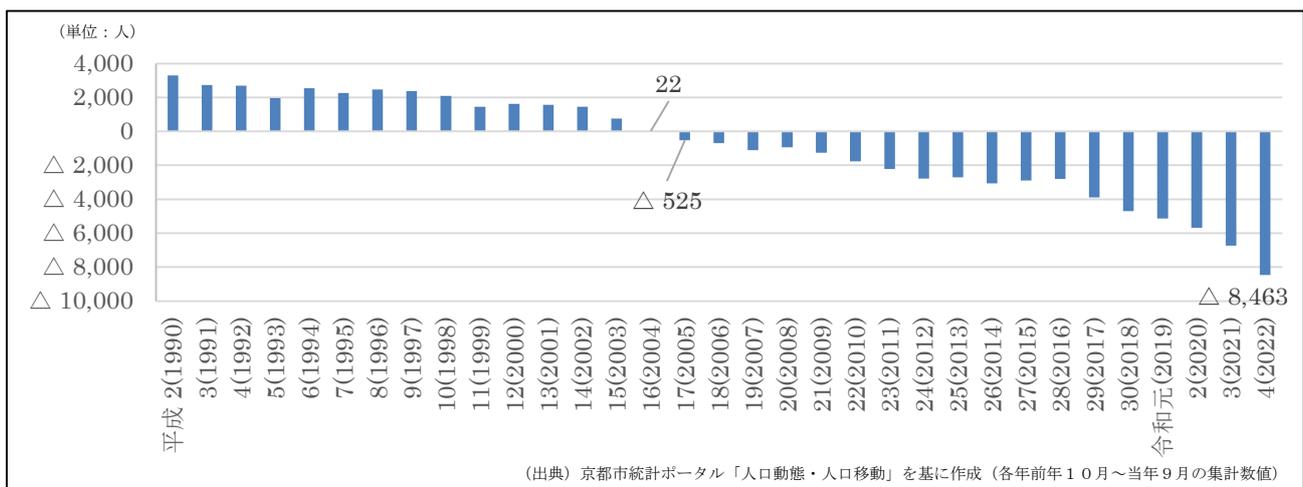
出生数は、約4割の減 (37.9%の減)

死亡数は、約6割の増 (61.7%の増)

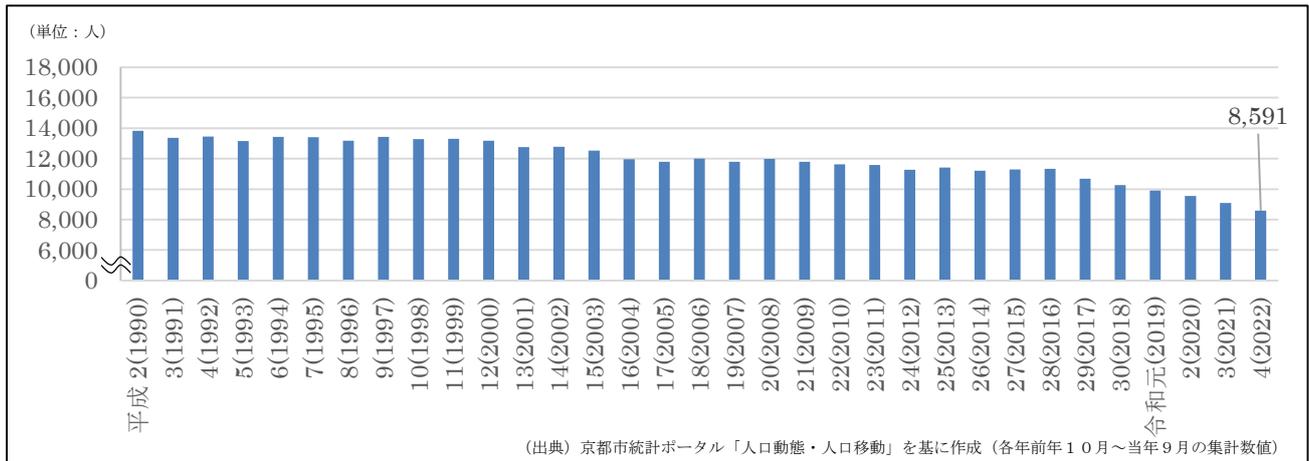
○ 団塊世代や団塊ジュニア世代の人口のボリュームゾーンが高齢化し若い世代が減少 グラフ18

○ 日本全体では、令和3年(令和3年1月～12月)の数値は、出生数が過去最小(81万1,622人)、死亡数が戦後最多(143万9,856人)である。

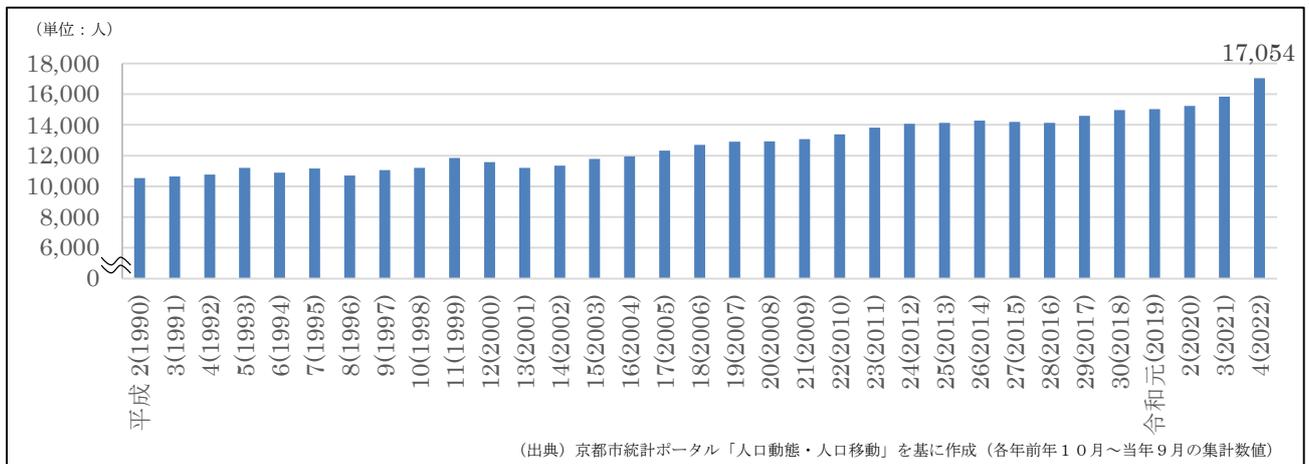
【グラフ15】京都市の自然動態(平成2年から令和4年の推移)



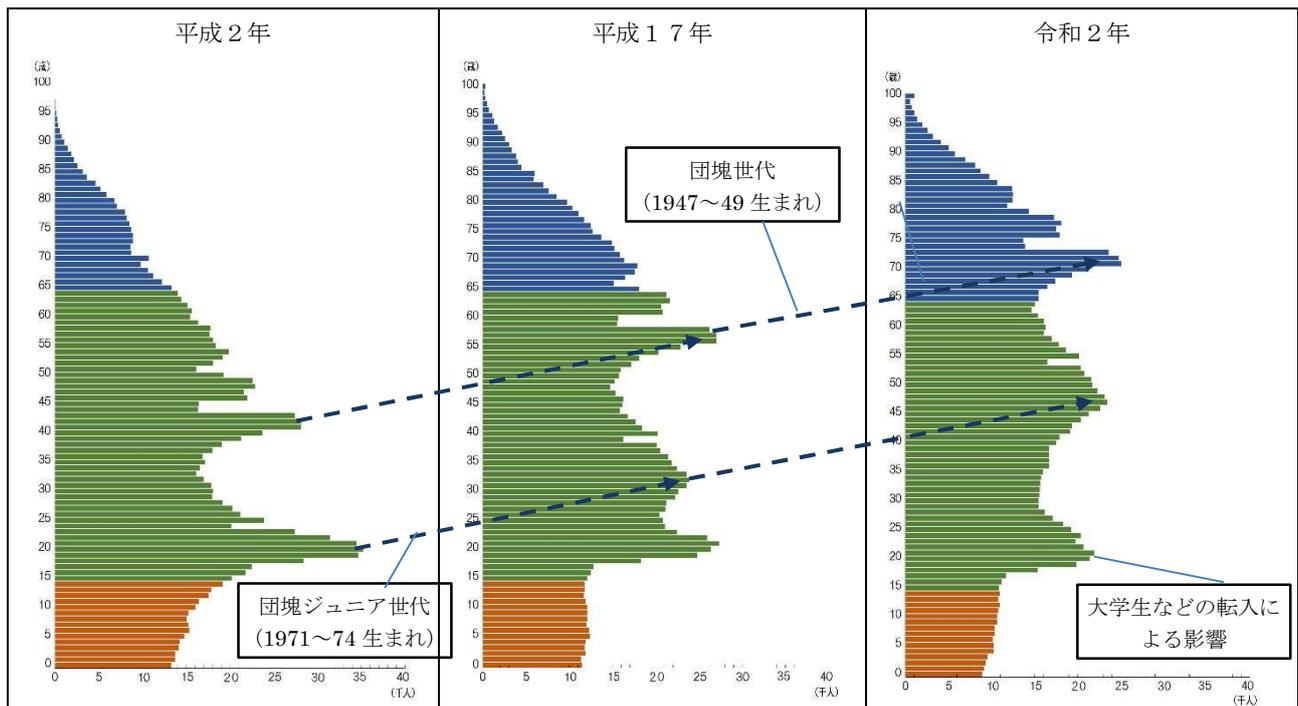
【グラフ16】京都市の出生数（平成2年から令和4年の推移）



【グラフ17】京都市の死亡数（平成2年から令和4年の推移）



【グラフ18】京都市の人口ピラミッド（平成2年・17年・令和2年比較）



(2) 区の自然動態

全ての行政区で減少

- 平成29年以降、全区で減少に転じており、減少幅が年々拡大
(平成23年から平成28年は、全行政区の中で西京区のみが増加)

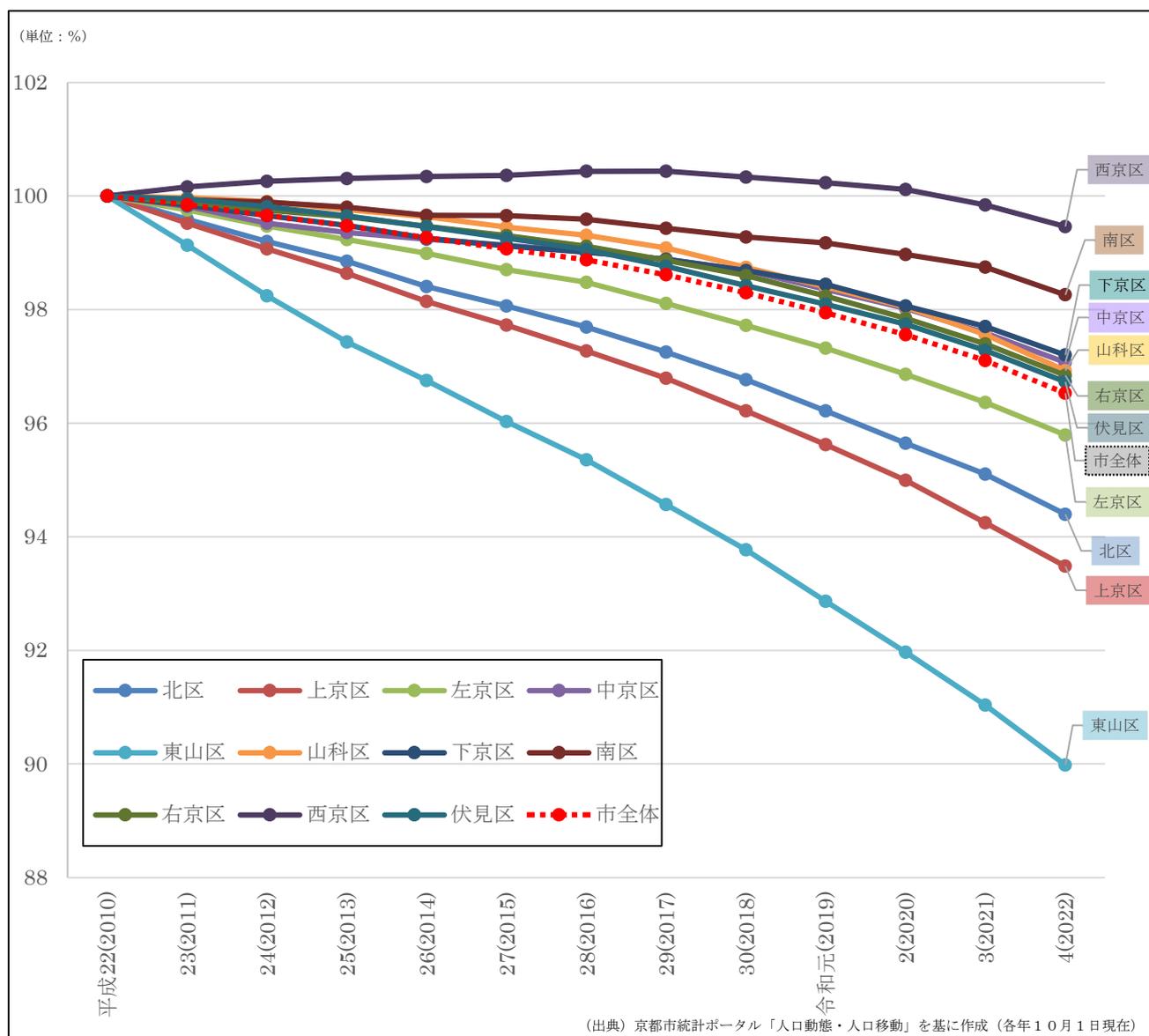
グラフ19

- 平成22年から令和4年(12年間)の変化

表8

10%以上減少	1区	東山区
5%以上減少	2区	上京区、北区
3%以上減少	4区	左京区、伏見区、右京区、山科区
1%以上減少	3区	中京区、下京区、南区

【グラフ19】 区の自然動態の増減率（平成22年から令和4年の変化）



※ 平成22年を100としたときの増減率

【表8】 区の自然動態の減少率（平成22年・令和4年比較）

順位	減 少		順位	減 少	
	行政区	減少率（実数）		行政区	減少率（実数）
1	東山区	△10.02%（△4,059人）	7	山科区	△3.07%（△4,180人）
2	上京区	△6.52%（△5,427人）	8	中京区	△2.93%（△3,083人）
3	北 区	△5.60%（△6,838人）	9	下京区	△2.80%（△2,218人）
4	左京区	△4.21%（△7,103人）	10	南 区	△1.74%（△1,716人）
5	伏見区	△3.27%（△9,287人）	11	西京区	△0.54%（△822人）
6	右京区	△3.16%（△6,404人）	—	—	—

（3）国勢統計区（元学区）の自然動態

【表9】 国勢統計区（元学区）の状況（平成22年・令和4年比較）

区名	学区数	増 加		状 況
		増加	減少	
北	19	1	18	減少は18学区（上賀茂以外）、うち1割以上減少は5学区（楽只、柏野、中川、小野郷、雲ヶ畑）
上京	17	0	17	減少は17学区（全学区）、うち1割以上減少は2学区（乾隆、仁和）
左京	26	1	25	減少は25学区（岩倉南以外）、うち1割以上減少は5学区（鞍馬、花脊、久多、広河原、大原）
中京	23	6	17	減少は17学区（城巽、龍池、明倫、本能、初音、柳池以外）、うち1割以上減少は1学区（立誠）
東山	11	0	11	減少は11学区（全学区）、うち1割以上減少は6学区（清水、月輪、一橋、貞教、弥栄、有濟）
山科	13	2	11	減少は11学区（山階南、小野以外）、うち1割以上減少は0学区
下京	23	4	19	減少は19学区（七条第三、格致、成徳、有隣以外）、うち1割以上減少は2学区（菊浜、崇仁）
南	15	3	12	減少は12学区（久世、吉祥院、祥豊以外）、うち1割以上減少は3学区（九条、山王、陶化）
右京	28	4	24	減少は24学区（南太秦、西院第二、西京極西、葛野以外）、うち1割以上減少は8学区（水尾、宕陰、黒田、山国、弓削、周山、宇津、細野）
西京	17	8	9	減少は9学区（松尾、松陽、桂川、桂徳、桂東、川岡、川岡東、大枝以外）、うち1割以上減少は0学区
伏見	35	7	28	減少は28学区（竹田、下鳥羽、久我、久我の杜、羽束師、横大路、桃山東以外）、うち1割以上減少は2学区（北醍醐、醍醐西）
計	227	36	191	減少は191学区、うち1割以上減少は34学区

【表10】国勢統計区（元学区）の自然動態の増減率（平成22年・令和4年比較）

順位	増 加		減 少	
	国勢統計区	増加率（実数）	国勢統計区	減少率（実数）
1	西京区 桂徳	8.7% (583人)	右京区 宕陰	△50.0% (△109人)
2	西京区 川岡東	8.2% (652人)	左京区 久多	△39.0% (△39人)
3	南 区 久世	7.5% (1,593人)	北 区 小野郷	△32.8% (△87人)
4	右京区 西院第二	6.3% (842人)	右京区 水尾	△28.6% (△16人)
5	伏見区 久我の杜	5.2% (406人)	北 区 中川	△23.3% (△90人)
6	中京区 龍池	5.2% (129人)	下京区 崇仁	△21.5% (△355人)
7	伏見区 羽束師	5.0% (517人)	右京区 宇津	△21.3% (△98人)
8	西京区 桂東	4.0% (379人)	北 区 雲ヶ畑	△21.1% (△37人)
9	伏見区 竹田	3.6% (410人)	右京区 黒田	△20.7% (△68人)
10	西京区 桂川	3.5% (353人)	右京区 細野	△18.6% (△84人)
11	南 区 祥豊	3.3% (293人)	右京区 山国	△17.6% (△228人)
12	西京区 大枝	3.2% (206人)	右京区 弓削	△17.6% (△302人)
13	下京区 成徳	3.2% (85人)	左京区 花脊	△17.5% (△49人)
14	左京区 岩倉南	2.6% (301人)	東山区 弥栄	△17.4% (△232人)
15	伏見区 久我	2.6% (280人)	伏見区 北醍醐	△15.6% (△593人)
16	西京区 松尾	2.2% (277人)	右京区 周山	△14.9% (△206人)
17	西京区 川岡	2.1% (225人)	南 区 九条	△13.9% (△277人)
18	中京区 城巽	1.8% (89人)	北 区 楽只	△13.6% (△337人)
19	伏見区 下鳥羽	1.5% (137人)	左京区 鞍馬	△13.5% (△80人)
20	下京区 七条第三	1.4% (109人)	北 区 柏野	△13.4% (△450人)
21	中京区 柳池	1.3% (54人)	左京区 大原	△12.9% (△301人)
22	中京区 初音	1.2% (40人)	伏見区 醍醐西	△12.7% (△649人)
23	中京区 本能	1.2% (60人)	南 区 陶化	△12.4% (△614人)
24	山科区 小野	1.2% (125人)	東山区 月輪	△12.3% (△707人)
25	伏見区 桃山東	0.9% (70人)	東山区 有濟	△12.3% (△260人)
26	南 区 吉祥院	0.9% (99人)	南 区 山王	△12.2% (△483人)
27	下京区 格致	0.8% (36人)	左京区 広河原	△12.0% (△13人)
28	伏見区 横大路	0.6% (28人)	東山区 貞教	△12.0% (△326人)
29	右京区 南太秦	0.6% (33人)	下京区 菊浜	△11.9% (△234人)
30	右京区 西京極西	0.6% (27人)	東山区 一橋	△11.9% (△611人)

※ 本集計は、国勢統計区（元学区）における、平成22年から令和4年の12年間の人口変動の増減率（実数）を示したもの。ただし、左京区岩倉地区の3国勢統計区（岩倉北、明德、岩倉南）は、平成27年国勢調査時に旧岩倉国勢統計区を3つに分割することにより新設された国勢統計区であり、例外的に、平成27年から令和4年の7年間の期間としている。

※ その他集計上の留意点は、P44（「国勢統計区（元学区）における集計に関する留意点」）を参照

3 京都市の社会動態

(1) 京都市全体の社会動態

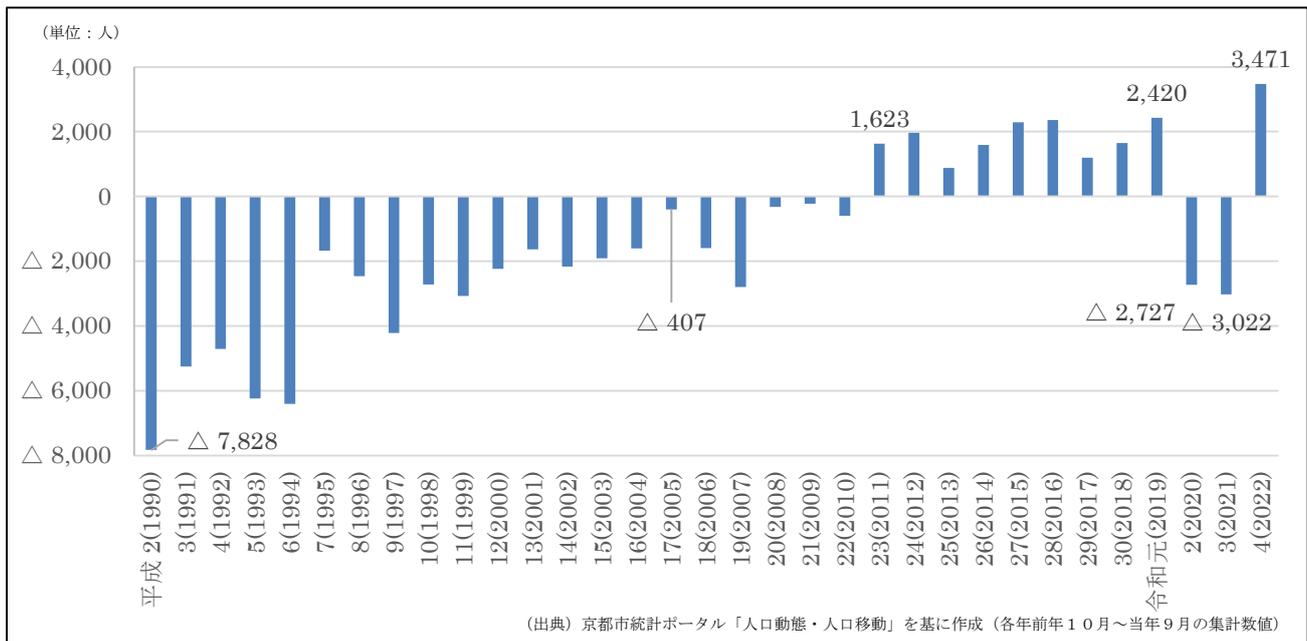
平成23年以降、令和2年と3年を除き、増加（令和4年は過去30年で最大の転入超過）

○ 平成2年から令和4年（32年間）の変化

グラフ20

- ・ 平成2年に7,828人の転出超過であったが、15年間で、おおむね転出と転入の差が小さくなるまで改善（平成17年：△407人）
- ・ 平成17年から平成22年の5年間は、一部の年を除き、転出は小規模
- ・ 平成23年からは9年連続で転入が転出を上回ったが、令和2年と3年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて大幅な減少
- ・ 令和4年は過去30年間で最大の転入超過となり、平成23年からの転入超過傾向に復帰

【グラフ20】京都市の社会動態（平成2年から令和4年の推移）



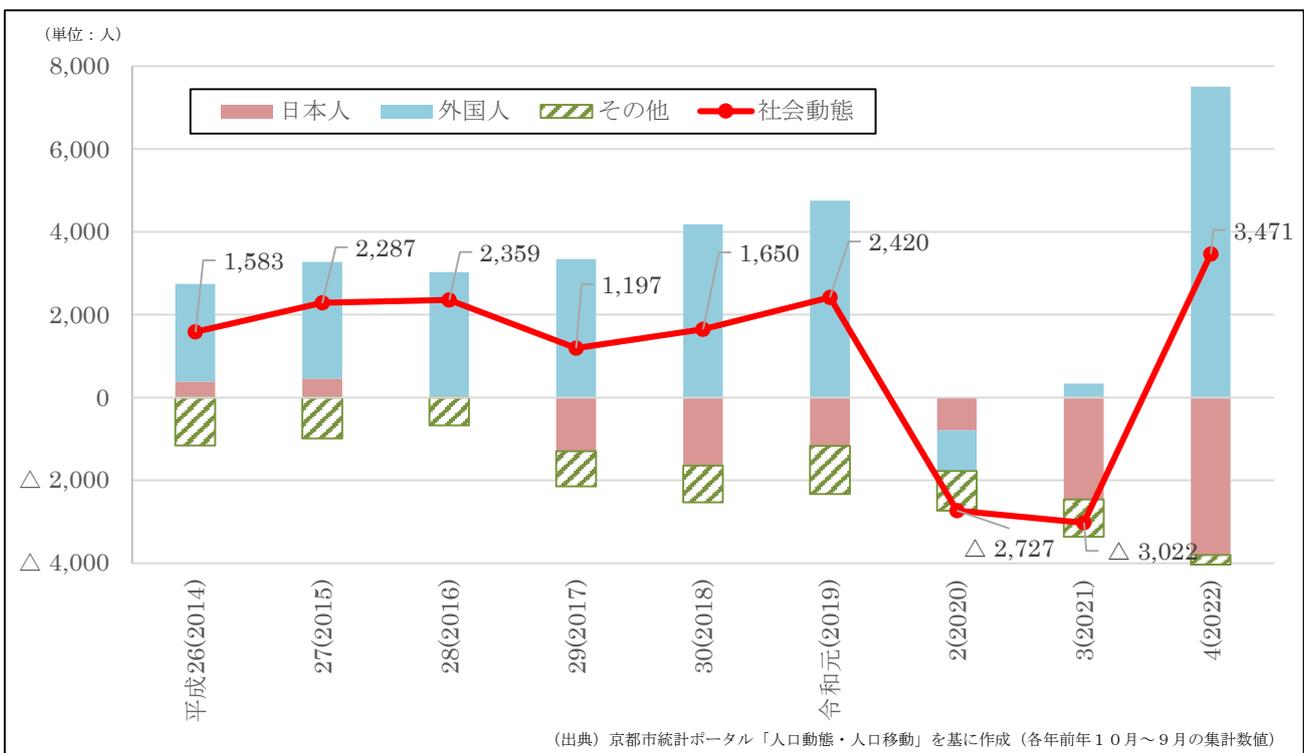
ア 日本人・外国人別の社会動態

京都市の社会動態の増加は、日本人の転出を上回る大幅な外国人の転入

グラフ 2 1

- 日本人は、平成 2 8 年におおむね転入と転出の差がなくなり、その後は、転出超過が継続し、増大する傾向
- 外国人は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた令和 2 年と 3 年を除き、毎年、2 千人を超える転入が継続し、増大する傾向

【グラフ 2 1】日本人・外国人別の社会動態（平成 2 6 年から令和 4 年の推移）



※ 「その他」は、職権による住民基本台帳への記載及び削除等であり、外国人が正規の転出届出を経ずに帰国し、法務省通知に基づき職権削除したもの（本来は「国外移動のうち外国人」に分類されるもの）が大半を占めている。

イ 年齢別の社会動態

京都市の社会動態の年齢別特徴は、25～39歳の転出超過、15～24歳の転入超過

○ 転出超過

グラフ22、23

大きく転出超過しているのは、0～4歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳
25～39歳と併せて、0～4歳が転出していることから、結婚期、若しくは子どもが幼
い子育て期に家族で転出していると考えられる。

○ 転入超過

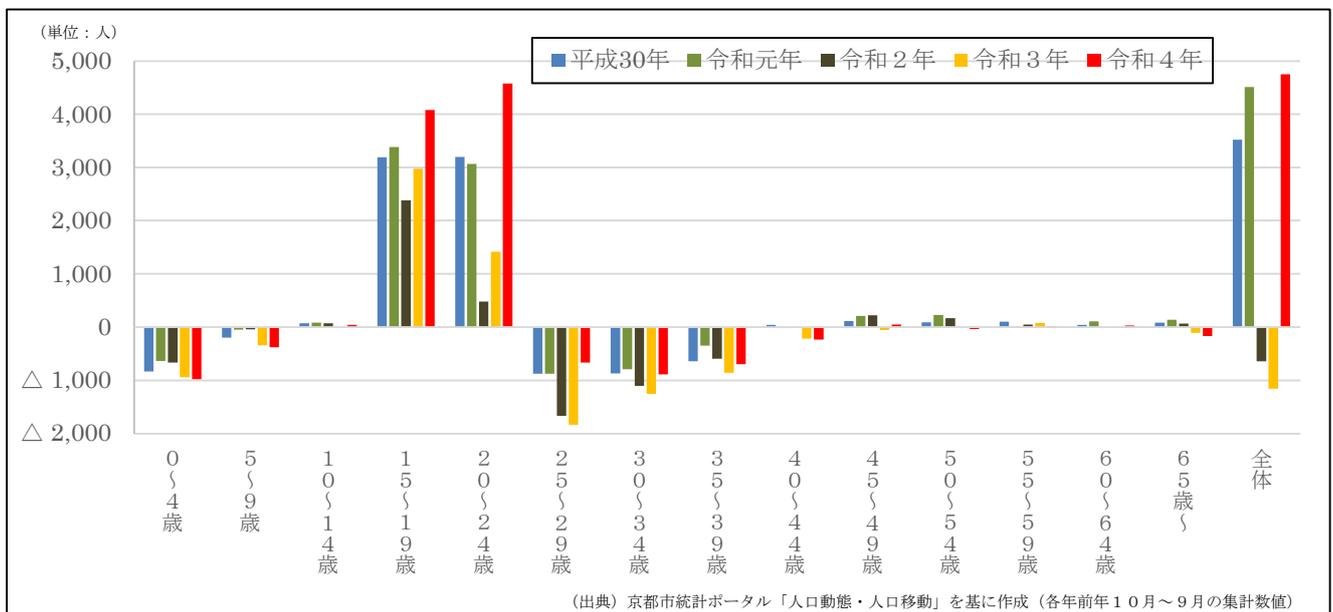
グラフ22、23

大きく転入超過しているのは、15～19歳、20～24歳

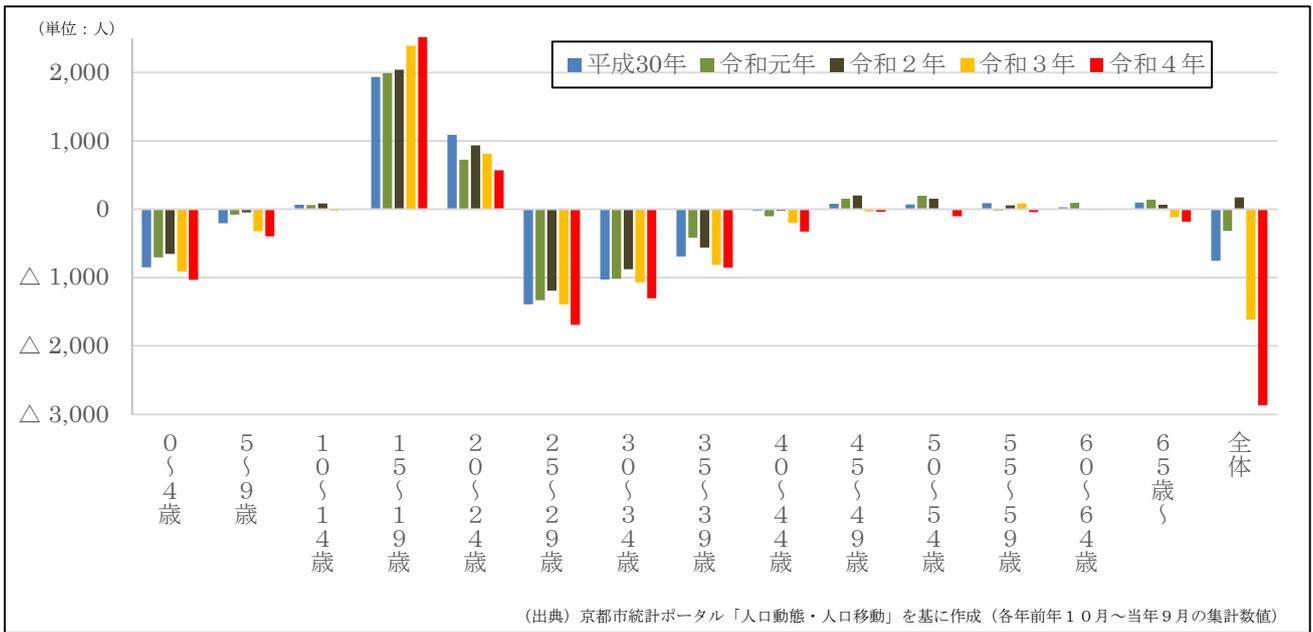
15～24歳の人口の転入超過は、日本人の大学入学による転入（主に15～19歳）、留
学生をはじめとする外国人の転入などが要因と考えられる。

このうち20～24歳は、大学卒業による転出があるが、それを上回る転入があること
により全体的には転入超過となっている。

【グラフ22】年代別の社会動態（日本人、外国人の総数）



【グラフ23】年代別の社会動態（日本人のみ）



ウ 転入元・転出先別の社会動態

京都市の社会動態の転出入の特徴は、近隣都市と東京都への転出、国外からの転入

グラフ24、25

- 転出先としては、近隣都市と東京都が多い。
転出超過（令和4年）が大きいのは、
大阪府（△1,930人、うち日本人△1,809人）、
滋賀県（△1,407人、うち日本人△1,373人）、
府南部（△1,625人、うち日本人△1,595人）、
東京都（△1,094人、うち日本人△1,130人）

- 転入元としては、国外が圧倒的に多く、国内は北海道・東北、甲信越・北陸、東海4県、
中国・四国、九州・沖縄から転入超過
転入超過（令和4年）が大きいのは、
国外 7,176人の転入超過
国内 中国・四国（838人、うち日本人713人）、
東海4県（554人、うち日本人499人）

最大の転出は、近隣都市へ出ていく25～39歳の結婚・子育て世代

- 15～19歳の傾向 グラフ26
ほぼ全ての地方から転入超過。近隣都市からの転入数は低い傾向

- 20～24歳の傾向 グラフ27
総数では転入超過であるが、東京都を含む関東及び大阪府との間では大きく転出

- 25～29歳の傾向 グラフ28
東京都を含む関東、府南部、滋賀県、大阪府へ転出超過

- 30～34歳の傾向 グラフ29
府南部、滋賀県、大阪府へ転出超過

- 35～39歳の傾向 グラフ30
府南部、滋賀県、大阪府へ転出超過

(ア) 日本人、外国人の総数

【グラフ24】 転入元・転出先別（日本人、外国人の総数）

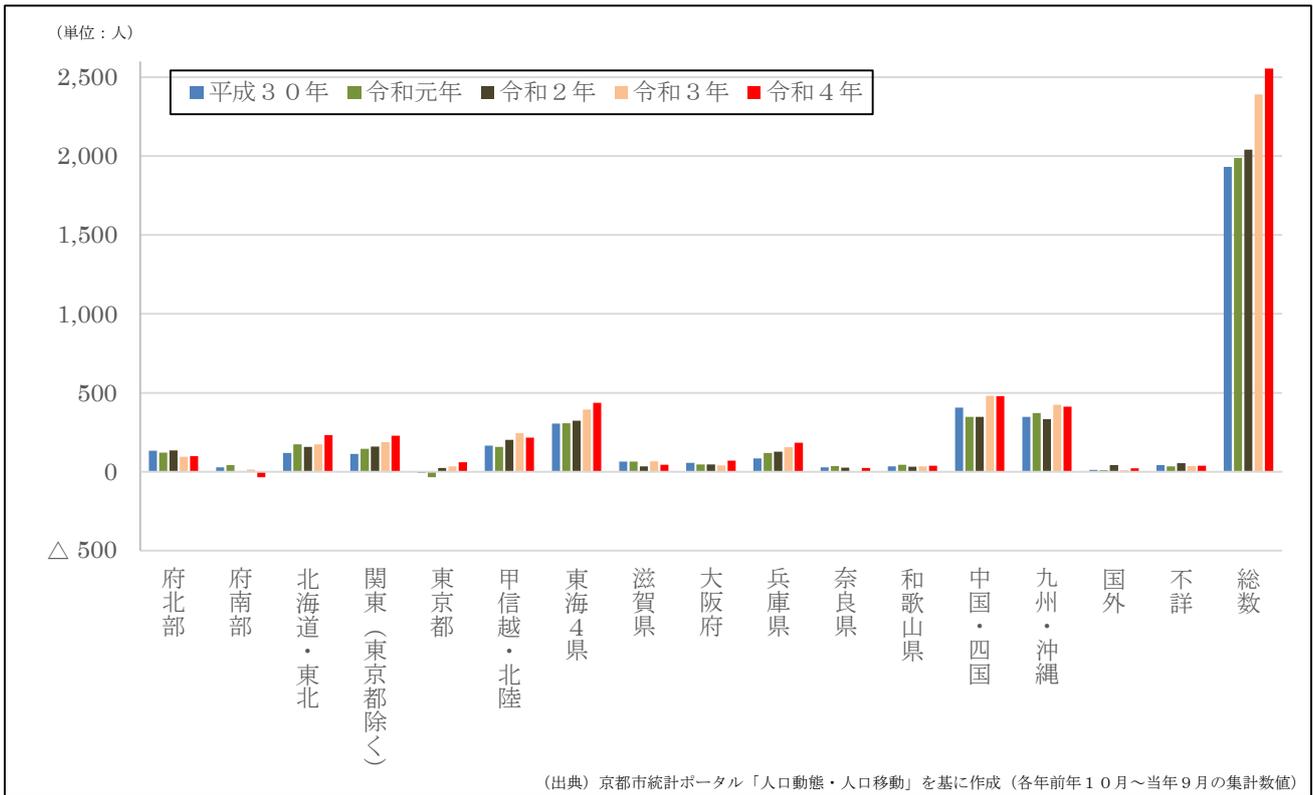


(イ) 日本人のみ

【グラフ25】 転入元・転出先別（日本人のみ）



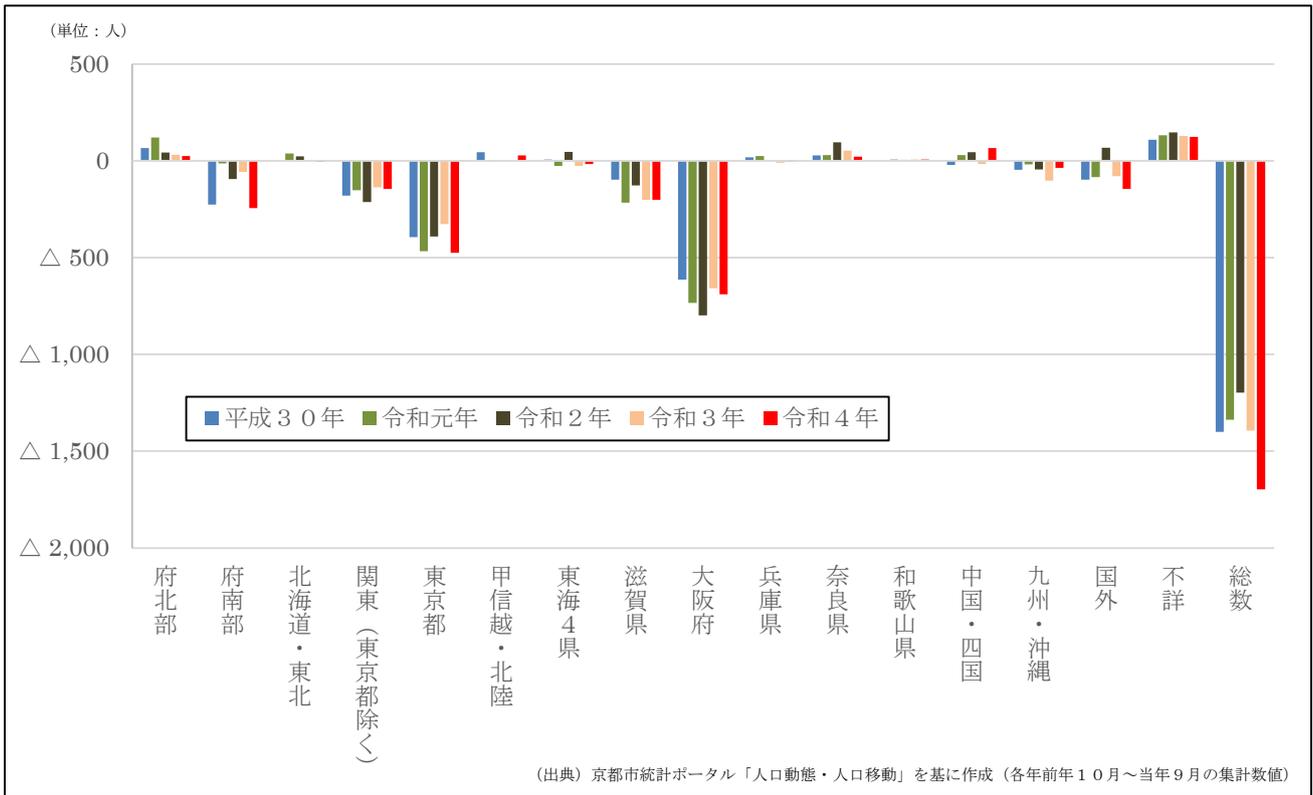
【グラフ26】 転入元・転出先別（日本人のみ 15～19歳）



【グラフ27】 転入元・転出先別（日本人のみ 20～24歳）



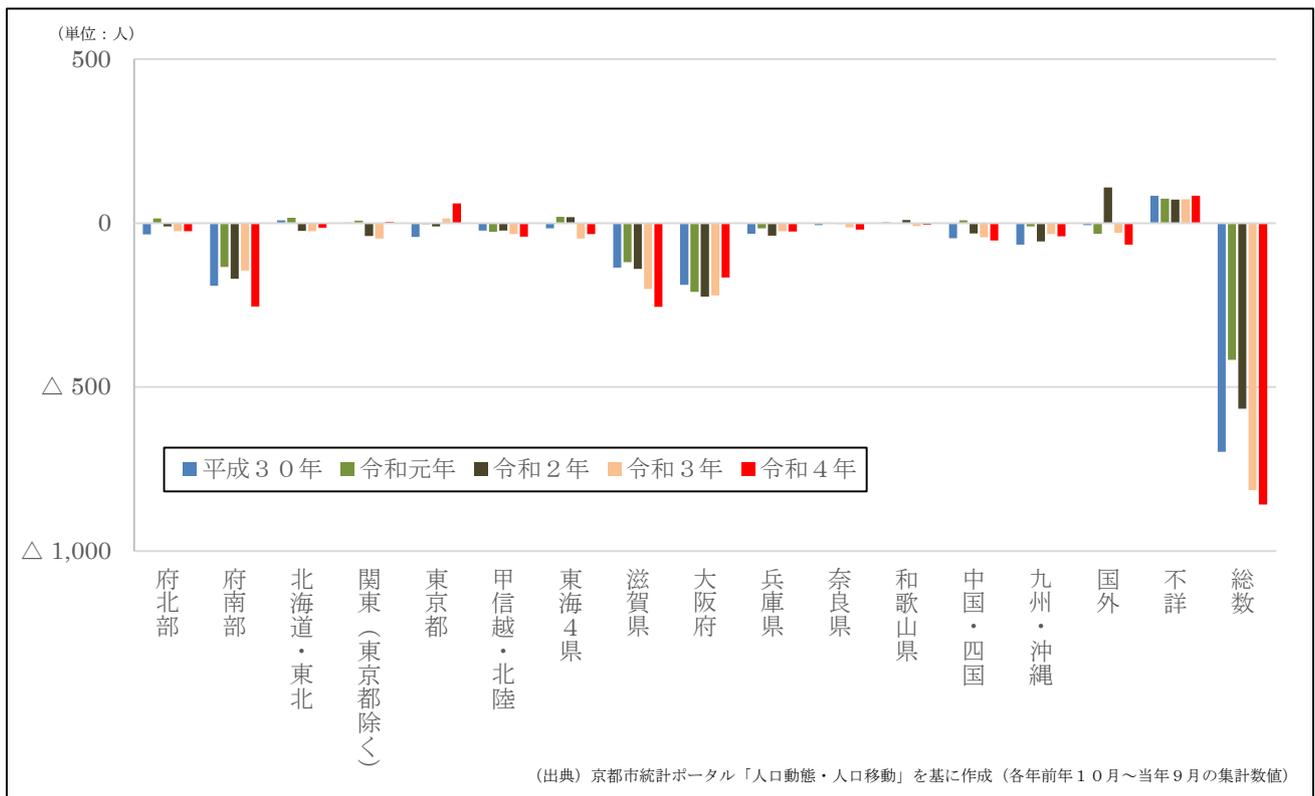
【グラフ28】 転入元・転出先別（日本人のみ 25～29歳）



【グラフ29】 転入元・転出先別（日本人のみ 30～34歳）



【グラフ30】転入元・転出先別（日本人のみ 35～39歳）



エ 社会動態の特徴

京都市の社会動態の特徴としては、以下の3点が挙げられる。

- ・特徴1 転出する人より転入する人が多い。
- ・特徴2 外国人（留学生や研究者等）の転入者が多く全体では転入する人が多くなっているが、日本人に限れば転出する人が多い。
- ・特徴3 日本人の転出状況は、25～39歳の結婚・子育て世代の主に近隣都市である大阪府、滋賀県、府南部への転出が大きい（20～24歳は、一部地域（東京を含む関東及び大阪府）への転出は大きい、総数では転入超過）。

一方、転出意向に関する京都府の調査（P33参照）では、京都市域からの転出では、男女とも一番の理由が住宅事情となっている。二番以下は、男性では、通勤通学の便、豊かな自然環境、就職、女性では、豊かな自然環境、結婚、通勤通学の便となっている。

また、宇治市の調査（P33参照）でも、宇治市への転入者の約35%は本市からであり、宇治市と本市を比較検討された方が、「住まいを選ぶきっかけ・理由」として最も多く挙げているのは、「住宅の都合（価格、広さなど）」となっている。

これらの結果を踏まえると、本市の社会動態の減少は、25～39歳の結婚・子育て世代が、主に近隣都市に流出しており、その理由は、結婚・子育て世代が求める条件に合った住宅の確保の難しさが影響していると推察される。

＜参考1＞京都府少子化要因実態調査（平成27年3月／京都府）（調査内容から抜粋）

京都府において、20～44歳の方を対象に調査を実施し、平成27年3月に公表されたもの。

1 転出意向理由（サンプル数：4,007）

- ① 転出意向理由（地域別）の回答者全体で、「住宅事情」を転出意向理由として挙げている者は28.6%で、本市の男性は33.9%、女性は30.2%となっている。
- ② 本市における男女別の転出意向理由の上位は以下のとおり

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	住宅事情 (33.9%)	通勤通学の便 (20.4%)	豊かな自然環境 (19.2%)	就職 (16.7%)	子どもの学習環境 (16.2%)
女性	住宅事情 (30.2%)	豊かな自然環境 (20.8%)	結婚 (20.2%)	通勤通学の便 (17.1%)	子どもの学習環境 (12.7%)

2 住宅費・住居の広さの満足度（サンプル数：7,593）

- ① 本市における家賃など住居費（地域別）における満足度は、府全体よりも低い。
府全体：満足33.5%／本市男性、満足31.0%、本市女性：満足32.6%
- ② 本市における住居の広さ（地域別）における満足度は、府全体よりも低い。
府全体：満足54.0%／本市男性：満足48.1%、本市女性：満足50.1%

＜参考2＞転出者・転入者へのアンケート調査結果（平成29年3月／宇治市）（調査結果から抜粋）

宇治市において、18歳以上の転入者・転出者を対象に調査を実施し、平成29年3月に公表されたもの。

1 宇治市への転入前の地域（サンプル数：771）

1位 京都市（35.1%）、2位 大阪府（9.2%）、3位 関東地方（8.0%）

2 宇治市への転入のきっかけ・理由（サンプル数：264）

- ・ 宇治市と京都市を検討した方が「住まいを選ぶきっかけ・理由」として挙げていたもの（上位5つ）は、
 - ① 「住宅の都合（価格、広さなど）」 （70件）
 - ② 「結婚・出産など世帯構成の変動」 （62件）
 - ③ 「仕事の都合（就職・転職・退職など）」 （53件）
 - ④ 「電車・バスなどの交通の便が良い」 （53件）
 - ⑤ 「家族との同居・近居」 （40件）

(2) 区の社会動態

7つの行政区で増加、4つの行政区で減少

- 11行政区中、過半数の7区で増加

グラフ 3 1

- 平成22年から令和4年（12年間）の変化

表 1 1

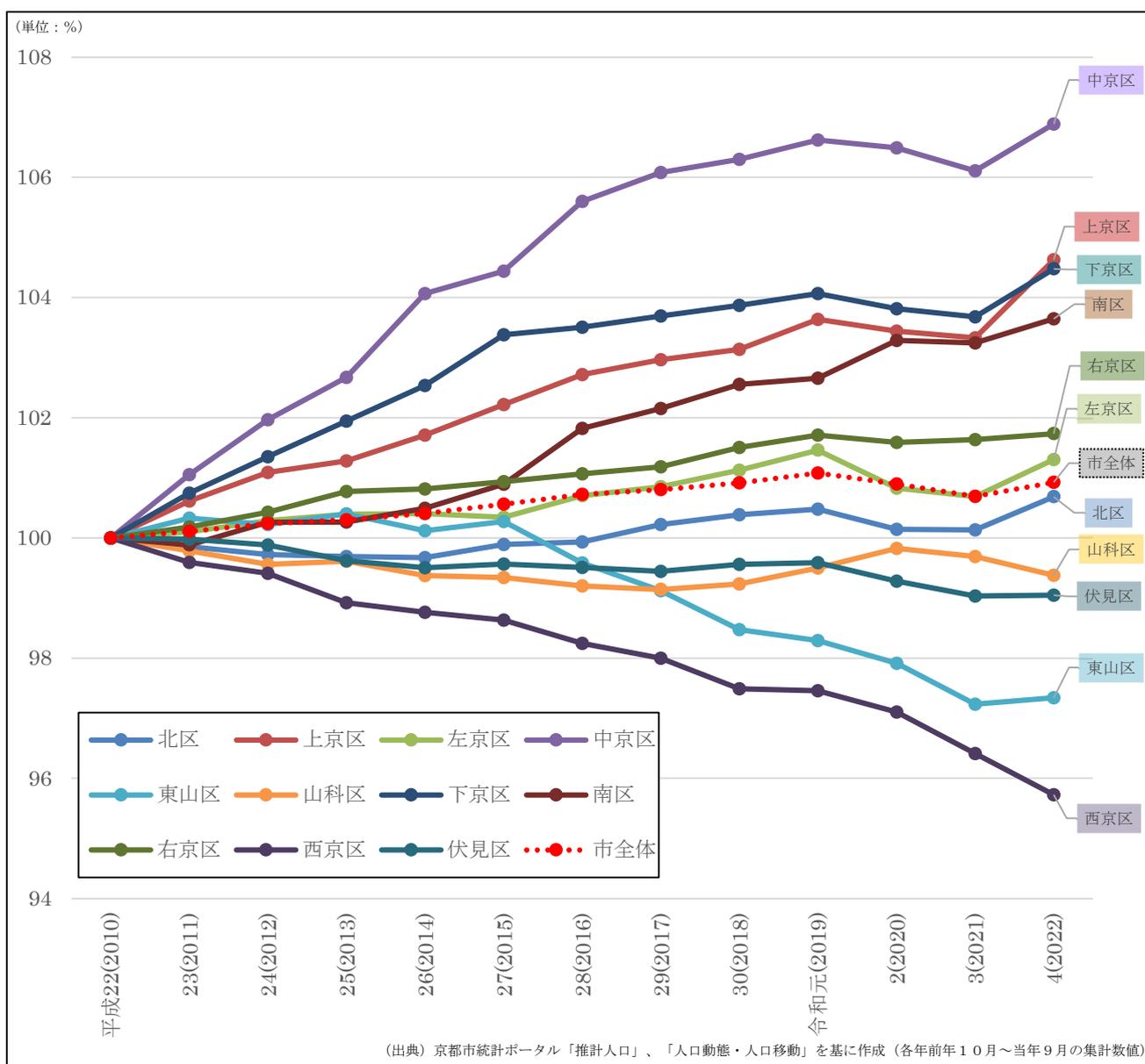
5%以上	増加	1区	中京
3%以上	増加	3区	上京、下京、南
1%以上	増加	2区	右京、左京
0%以上	増加	1区	北
0%以上	減少	2区	伏見、山科
1%以上	減少	1区	東山
3%以上	減少	1区	西京

宿泊施設の多い行政区で必ずしも転出者数は多くない

- 旅館・ホテルの数が多い、下京区、中京区では、社会動態が増加傾向

表 1 2

【グラフ31】区の社会動態の増減率（平成22年から令和4年の変化）



※ 平成22年を100としたときの増減率

【表11】区の社会動態の増減率（平成22年・令和4年比較）

順位	増加		減少	
	行政区	増加率（実数）	行政区	減少率（実数）
1	中京区	6.89%（7,255人）	西京区	△4.27%（△6,534人）
2	上京区	4.63%（3,855人）	東山区	△2.66%（△1,078人）
3	下京区	4.48%（3,552人）	伏見区	△0.95%（△2,702人）
4	南区	3.65%（3,603人）	山科区	△0.62%（△844人）
5	右京区	1.74%（3,529人）	—	—
6	左京区	1.30%（2,201人）	—	—
7	北区	0.69%（841人）	—	—

【表 1 2】区ごとの旅館・ホテルの数（令和 4 年 3 月末現在）

順位	行政区	旅館・ホテルの数	社会動態の増減率順位
1	下京区	1 7 8	③
2	中京区	1 3 8	①
3	東山区	1 2 0	⑩
4	左京区	6 6	⑥
5	南 区	5 3	④
6	伏見区	4 2	⑨
7	右京区	2 8	⑤
8	上京区	1 9	②
9	西京区	1 8	⑪
1 0	北 区	1 3	⑦
1 1	山科区	5	⑧

（出典）京都市統計ポータル「人口動態・人口移動」及び「資料：京都市保健福祉局医療衛生推進室
医療衛生企画課」を基に作成

(3) 国勢統計区（元学区）の社会動態

【表 1 3】国勢統計区（元学区）の状況（平成 2 2 年・令和 4 年比較）

区名	学区数	増加		減少	状 況
		増加	減少		
北	1 9	1 1		8	減少は 8 学区（待鳳、鷹峯、大宮、柊野、金閣、中川、小野郷、雲ヶ畑）、うち 1 割以上減少は 2 学区（中川、雲ヶ畑）
上京	1 7	1 6		1	減少は 1 学区（翔鸞）、うち 1 割以上減少は 0 学区
左京	2 6	1 6		1 0	減少は 1 0 学区（明德、鞍馬、花脊、八瀬、上高野、修学院第一、修学院第二、浄楽、川東、聖護院）、うち 1 割以上減少は 0 学区
中京	2 3	2 1		2	減少は 2 学区（立誠、生祥）、うち 1 割以上減少は 0 学区
東山	1 1	4		7	減少は 7 学区（六原、月輪、一橋、貞教以外）、うち 1 割以上減少は 1 学区（修道）
山科	1 3	8		5	減少は 5 学区（山階南、音羽、大塚、大宅、百々）、うち 1 割以上減少は 0 学区
下京	2 3	1 9		4	減少は 4 学区（植柳、大内、菊浜、崇仁）、うち 1 割以上減少は 0 学区
南	1 5	1 1		4	減少は 4 学区（梅逕、東梅逕、山王、祥栄）、うち 1 割以上減少は 1 学区（梅逕）
右京	2 8	1 5		1 3	減少は 1 3 学区（南太秦、常磐野、西京極、北梅津、嵐山、水尾、高雄、御室、黒田、弓削、周山、宇津、細野）、うち 1 割以上減少は 3 学区（南太秦、黒田、宇津）
西京	1 7	4		1 3	減少は 1 3 学区（嵐山東、桂川、桂徳、檜原以外）、うち 1 割以上減少は 2 学区（境谷、竹の里）
伏見	3 5	1 7		1 8	減少は 1 8 学区（竹田、住吉、板橋、羽束師、淀、横大路、南浜、桃山、桃山東、桃山南、稲荷、砂川、深草、藤ノ森、藤城、北醍醐、春日野以外）、うち 1 割以上減少は 5 学区（美豆、向島二ノ丸、向島藤ノ木、池田、小栗栖）
計	2 2 7	1 4 2		8 5	減少は 8 5 学区、うち 1 割以上減少は 1 4 学区

【表 1 4】国勢統計区（元学区）の社会動態の増減率（平成 2 2 年・令和 4 年比較）

順位	増 加		減 少	
	国勢統計区	増加率（実数）	国勢統計区	減少率（実数）
1	右京区 宕陰	31.2% (68 人)	伏見区 小栗栖	△26.3% (△841 人)
2	中京区 龍池	26.5% (658 人)	伏見区 向島藤ノ木	△20.7% (△988 人)
3	下京区 郁文	22.8% (826 人)	北 区 中川	△18.9% (△73 人)
4	上京区 小川	18.8% (1,003 人)	右京区 黒田	△15.8% (△52 人)
5	山科区 西野	17.8% (878 人)	伏見区 向島二ノ丸	△14.8% (△812 人)
6	下京区 永松	15.6% (282 人)	西京区 竹の里	△13.9% (△816 人)
7	上京区 成逸	15.4% (423 人)	右京区 南太秦	△13.8% (△776 人)
8	伏見区 北醍醐	14.2% (541 人)	西京区 境谷	△12.1% (△776 人)
9	伏見区 桃山東	13.9% (1,028 人)	伏見区 池田	△11.8% (△744 人)
1 0	中京区 日彰	13.7% (396 人)	右京区 宇津	△11.5% (△53 人)
1 1	上京区 京極	13.1% (695 人)	伏見区 美豆	△11.5% (△728 人)
1 2	下京区 七条第三	12.6% (973 人)	東山区 修道	△10.7% (△521 人)
1 3	下京区 成徳	12.4% (330 人)	南 区 梅逕	△10.7% (△121 人)
1 4	中京区 本能	12.3% (604 人)	北 区 雲ヶ畑	△10.3% (△18 人)
1 5	右京区 安井	12.2% (856 人)	西京区 福西	△9.5% (△662 人)
1 6	右京区 西院第二	11.8% (1,587 人)	伏見区 下鳥羽	△9.3% (△866 人)
1 7	下京区 淳風	11.7% (273 人)	右京区 細野	△8.6% (△39 人)
1 8	下京区 修徳	11.4% (375 人)	右京区 弓削	△8.6% (△147 人)
1 9	中京区 初音	11.2% (360 人)	西京区 大枝	△8.1% (△518 人)
2 0	下京区 西大路	11.1% (419 人)	西京区 新林	△8.1% (△673 人)
2 1	下京区 醒泉	11.0% (506 人)	東山区 有濟	△8.1% (△170 人)
2 2	南 区 東和	10.8% (794 人)	西京区 川岡東	△8.0% (△632 人)
2 3	上京区 嘉楽	10.3% (453 人)	中京区 立誠	△7.8% (△58 人)
2 4	下京区 安寧	10.2% (192 人)	左京区 聖護院	△7.5% (△306 人)
2 5	下京区 豊園	10.2% (288 人)	右京区 常磐野	△7.1% (△1,065 人)
2 6	中京区 銅駝	10.0% (293 人)	東山区 清水	△7.0% (△224 人)
2 7	中京区 富有	9.8% (226 人)	右京区 周山	△6.9% (△96 人)
2 8	上京区 滋野	9.7% (320 人)	西京区 松尾	△6.4% (△791 人)
2 9	左京区 葵	9.6% (1,084 人)	伏見区 小栗栖宮山	△6.3% (△298 人)
3 0	左京区 広河原	9.3% (10 人)	伏見区 醍醐西	△6.1% (△310 人)

※ 本集計は、国勢統計区（元学区）における、平成 2 2 年から令和 4 年の 1 2 年間の人口変動の増減率（実数）を示したもの。ただし、左京区岩倉地区の 3 国勢統計区（岩倉北、明德、岩倉南）は、平成 2 7 年国勢調査時に旧岩倉国勢統計区を 3 つに分割することにより新設された国勢統計区であり、例外的に、平成 2 7 年から令和 4 年の 7 年間の期間としている。

※ その他集計上の留意点は、P 4 4（「国勢統計区（元学区）における集計に関する留意点」）を参照

(参考) 京都市の国勢統計区(元学区)別人口

※ 国勢統計区の領域については、京都市統計ポータル「国勢統計区の領域地図」を参照

<https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Rikatsuyou/Map/>

※ その他集計上の留意点は、P 4 4 (「国勢統計区(元学区)における集計に関する留意点」)を参照

対象区域等	国勢調査人口				推計人口	平成22年・令和4年の比較					
	平成22年 10月1日	平成27年 10月1日	令和2年 10月1日	令和4年 10月1日		増減率	うち自然動態	うち社会動態	増減数	うち自然動態	うち社会動態
北 区	122,037	119,474	117,165	116,306		△4.7	△5.6	0.9	△5,731	△6,838	1,107
待鳳	10,541	10,186	9,851	9,819		△6.8	△6.3	△0.6	△722	△664	△58
紫竹	6,804	6,695	6,655	6,640		△2.4	△7.4	5.0	△164	△502	338
鳳徳	6,782	6,646	6,513	6,514		△4.0	△9.1	5.2	△268	△618	350
紫野	7,968	7,773	7,685	7,567		△5.0	△9.6	4.6	△401	△765	364
楽只	2,484	2,342	2,273	2,263		△8.9	△13.6	4.7	△221	△337	116
鷹峯	4,368	4,243	3,989	3,926		△10.1	△5.6	△4.5	△442	△244	△198
大宮	16,826	16,599	16,449	16,258		△3.4	△1.5	△1.9	△568	△245	△323
柘野	12,010	11,885	11,850	11,808		△1.7	△0.4	△1.3	△202	△49	△153
上賀茂	11,947	12,174	12,289	12,326		3.2	0.2	3.0	379	26	353
元町	3,201	3,161	3,083	3,028		△5.4	△6.6	1.2	△173	△211	38
紫明	6,079	5,970	6,095	6,041		△0.6	△6.7	6.1	△38	△408	370
出雲路	2,400	2,372	2,277	2,233		△7.0	△9.2	2.2	△167	△220	53
柏野	3,347	3,201	3,063	2,965		△11.4	△13.4	2.0	△382	△450	68
大將軍	5,415	5,410	5,261	5,373		△0.8	△8.1	7.4	△42	△441	399
衣笠	7,997	7,769	7,643	7,575		△5.3	△7.0	1.7	△422	△561	139
金閣	13,042	12,371	11,639	11,458		△12.1	△7.2	△5.0	△1,584	△935	△649
中川	386	293	237	223		△42.2	△23.3	△18.9	△163	△90	△73
小野郷	265	239	186	169		△36.2	△32.8	△3.4	△96	△87	△9
雲ヶ畑	175	145	127	120		△31.4	△21.1	△10.3	△55	△37	△18
上京区	83,264	85,113	83,832	83,561		0.4	△6.5	6.9	297	△5,427	5,724
桃菌	4,563	4,810	4,718	4,628		1.4	△3.1	4.5	65	△141	206
小川	5,349	5,940	6,042	6,151		15.0	△3.8	18.8	802	△201	1,003
中立	3,799	3,939	3,857	3,857		1.5	△3.4	5.0	58	△131	189
聚楽	3,051	3,155	3,112	3,132		2.7	△3.9	6.6	81	△119	200
正親	4,155	4,311	4,215	4,187		0.8	△4.9	5.7	32	△203	235
嘉楽	4,388	4,528	4,494	4,500		2.6	△7.8	10.3	112	△341	453
乾隆	2,989	2,988	2,908	2,878		△3.7	△10.6	6.9	△111	△317	206
西陣	3,145	3,268	3,193	3,109		△1.1	△5.1	3.9	△36	△160	124
成逸	2,751	2,966	2,894	2,993		8.8	△6.6	15.4	242	△181	423
室町	7,666	7,844	7,510	7,589		△1.0	△8.1	7.1	△77	△621	544
京極	5,321	5,670	5,655	5,748		8.0	△5.0	13.1	427	△268	695
春日	2,722	2,696	2,778	2,759		1.4	△1.4	2.8	37	△39	76
滋野	3,286	3,464	3,371	3,403		3.6	△6.2	9.7	117	△203	320
待賢	3,913	3,933	4,008	3,940		0.7	△6.3	7.0	27	△248	275
出水	8,493	8,591	8,606	8,382		△1.3	△5.6	4.3	△111	△474	363
仁和	10,503	10,309	10,067	9,982		△5.0	△10.3	5.3	△521	△1,080	559
翔鷲	7,170	6,701	6,404	6,323		△11.8	△9.8	△2.1	△847	△700	△147
左京区	168,802	168,266	166,039	165,031		△2.2	△4.2	2.0	△3,771	△7,103	3,332
(旧)岩倉	27,112	…	…	…		…	…	…	…	…	…
岩倉北	…	6,033	6,007	5,973		△1.0	△3.4	2.5	△60	△208	148
明德	…	10,618	10,480	10,344		△2.6	△1.7	△0.9	△274	△182	△92
岩倉南	…	11,745	12,435	12,680		8.0	2.6	5.4	935	301	634
<small>岩倉北、明德、岩倉南の3統計区は、平成27年国勢調査時に初めて設定されました。 よって本資料においては、例外的に、平成27年を起点とした7年間の増減を示しています。</small>											
静市	6,453	6,488	6,223	6,127		△5.1	△7.7	2.7	△326	△499	173
鞍馬	592	548	500	489		△17.4	△13.5	△3.9	△103	△80	△23
花脊	280	244	229	215		△23.2	△17.5	△5.7	△65	△49	△16

対象区域等	国勢調査人口			推計人口	平成22年・令和4年の比較					
	平成22年 10月1日	平成27年 10月1日	令和2年 10月1日	令和4年 10月1日	増減率	うち自然動態		増減数	うち社会動態	
久多	100	84	70	61	△39.0	△39.0	—	△39	△39	—
広河原	108	97	112	105	△2.8	△12.0	9.3	△3	△13	10
大原	2,335	2,110	2,093	2,076	△11.1	△12.9	1.8	△259	△301	42
八瀬	1,870	1,801	1,687	1,643	△12.1	△9.7	△2.5	△227	△181	△46
上高野	7,057	7,014	7,014	6,908	△2.1	△2.0	△0.1	△149	△139	△10
修学院第一	15,894	15,642	15,399	15,242	△4.1	△3.9	△0.2	△652	△626	△26
修学院第二	10,442	10,291	10,095	9,916	△5.0	△1.3	△3.8	△526	△134	△392
北白川	10,431	10,364	10,099	10,086	△3.3	△5.9	2.6	△345	△618	273
浄楽	7,083	6,708	6,337	6,166	△12.9	△8.9	△4.1	△917	△629	△288
錦林東山	3,639	3,465	3,388	3,300	△9.3	△9.9	0.6	△339	△360	21
岡崎	5,735	5,659	5,652	5,579	△2.7	△6.4	3.7	△156	△369	213
新洞	2,966	2,917	2,838	2,786	△6.1	△6.3	0.3	△180	△188	8
川東	2,804	2,716	2,635	2,637	△6.0	△1.2	△4.8	△167	△33	△134
聖護院	4,106	4,094	3,809	3,659	△10.9	△3.4	△7.5	△447	△141	△306
吉田	9,081	8,983	8,700	8,740	△3.8	△4.9	1.1	△341	△441	100
養正	7,847	7,758	7,625	7,538	△3.9	△7.3	3.4	△309	△576	267
養徳	14,942	14,988	14,811	14,700	△1.6	△3.1	1.5	△242	△464	222
下鴨	8,283	8,122	7,853	7,845	△5.3	△7.0	1.7	△438	△579	141
葵	11,322	11,322	11,481	11,561	2.1	△7.5	9.6	239	△845	1,084
松ヶ崎	8,320	8,455	8,467	8,655	4.0	△0.5	4.6	335	△45	380
中京区	105,306	109,341	110,488	109,904	4.4	△2.9	7.3	4,598	△3,083	7,681
教業	2,126	2,215	2,166	2,175	2.3	△3.3	5.6	49	△70	119
城巽	4,902	5,250	5,347	5,280	7.7	1.8	5.9	378	89	289
龍池	2,487	3,072	3,275	3,274	31.6	5.2	26.5	787	129	658
明倫	2,946	3,206	3,251	3,183	8.0	0.1	7.9	237	3	234
本能	4,924	5,479	5,731	5,588	13.5	1.2	12.3	664	60	604
乾	3,779	3,882	3,872	3,852	1.9	△5.6	7.5	73	△212	285
朱雀第一	9,640	9,893	9,920	9,869	2.4	△4.8	7.2	229	△464	693
朱雀第三	7,463	7,621	7,635	7,566	1.4	△6.7	8.1	103	△503	606
朱雀第七	6,091	5,975	6,134	6,051	△0.7	△7.8	7.1	△40	△475	435
朱雀第五	8,573	8,691	8,896	9,005	5.0	△2.6	7.6	432	△221	653
朱雀第四	6,595	6,782	6,741	6,645	0.8	△3.1	3.9	50	△206	256
朱雀第八	11,302	11,598	11,622	11,648	3.1	△1.7	4.8	346	△196	542
朱雀第二	5,801	6,177	6,035	5,992	3.3	△4.5	7.8	191	△263	454
朱雀第六	4,543	4,297	4,217	4,286	△5.7	△6.4	0.7	△257	△290	33
梅屋	3,604	3,636	3,594	3,632	0.8	△4.9	5.7	28	△176	204
竹間	2,364	2,405	2,446	2,457	3.9	△0.8	4.7	93	△19	112
富有	2,310	2,389	2,491	2,498	8.1	△1.6	9.8	188	△38	226
初音	3,225	3,549	3,629	3,625	12.4	1.2	11.2	400	40	360
柳池	4,077	4,359	4,582	4,448	9.1	1.3	7.8	371	54	317
銅駝	2,942	3,184	3,183	3,196	8.6	△1.3	10.0	254	△39	293
立誠	742	630	655	603	△18.7	△10.9	△7.8	△139	△81	△58
生祥	1,971	1,908	1,882	1,832	△7.1	△5.5	△1.5	△139	△109	△30
日彰	2,899	3,143	3,184	3,199	10.3	△3.3	13.7	300	△96	396
東山区	40,528	39,044	36,602	35,565	△12.2	△10.0	△2.2	△4,963	△4,059	△904
修道	4,847	4,463	4,073	3,991	△17.7	△6.9	△10.7	△856	△335	△521
六原	3,364	3,357	3,067	3,082	△8.4	△9.1	0.7	△282	△305	23
清水	3,198	3,012	2,805	2,646	△17.3	△10.3	△7.0	△552	△328	△224
今熊野	5,018	4,840	4,638	4,604	△8.3	△7.9	△0.4	△414	△396	△18
月輪	5,740	5,347	5,197	5,062	△11.8	△12.3	0.5	△678	△707	29

対象区域等	国勢調査人口				推計人口	平成22年・令和4年の比較					
	平成22年 10月1日	平成27年 10月1日	令和2年 10月1日	令和4年 10月1日		増減率	うち自然動態		増減数	うち社会動態	
一橋	5,145	5,191	4,953	4,752	△7.6	△11.9	4.2	△393	△611	218	
貞教	2,723	2,643	2,422	2,420	△11.1	△12.0	0.8	△303	△326	23	
新道	3,176	3,121	2,869	2,697	△15.1	△9.1	△6.0	△479	△288	△191	
弥栄	1,336	1,236	1,171	1,100	△17.7	△17.4	△0.3	△236	△232	△4	
有济	2,111	2,011	1,767	1,681	△20.4	△12.3	△8.1	△430	△260	△170	
栗田	3,870	3,823	3,640	3,530	△8.8	△7.0	△1.8	△340	△271	△69	
山科区	136,045	135,471	135,101	132,972	△2.3	△3.1	0.8	△3,073	△4,180	1,107	
勸修	12,767	12,360	12,166	12,272	△3.9	△5.4	1.5	△495	△689	194	
山階南	10,768	10,732	10,795	10,555	△2.0	0.1	△2.1	△213	10	△223	
鏡山	12,874	12,621	12,517	12,283	△4.6	△5.0	0.4	△591	△645	54	
西野	4,945	5,738	5,788	5,625	13.8	△4.0	17.8	680	△198	878	
山階	7,363	7,479	7,956	7,958	8.1	△0.03	8.1	595	△2	597	
音羽川	8,688	8,951	8,968	8,822	1.5	△0.3	1.8	134	△24	158	
音羽	8,814	8,569	8,440	8,111	△8.0	△4.9	△3.1	△703	△431	△272	
大塚	12,319	12,410	12,078	11,776	△4.4	△4.1	△0.3	△543	△501	△42	
大宅	18,200	17,772	17,497	17,183	△5.6	△2.0	△3.6	△1,017	△361	△656	
小野	10,533	10,661	10,953	10,773	2.3	1.2	1.1	240	125	115	
百々	11,675	11,393	11,284	10,976	△6.0	△4.8	△1.2	△699	△562	△137	
陵ヶ岡	10,823	10,544	10,232	10,242	△5.4	△6.9	1.6	△581	△750	169	
安朱	6,276	6,241	6,427	6,396	1.9	△2.4	4.3	120	△152	272	
下京区	79,287	82,668	82,784	82,627	4.2	△2.8	7.0	3,340	△2,218	5,558	
修徳	3,289	3,609	3,594	3,635	10.5	△0.9	11.4	346	△29	375	
尚徳	2,204	2,464	2,334	2,371	7.6	△0.1	7.7	167	△2	169	
植柳	2,972	2,903	2,682	2,676	△10.0	△9.3	△0.7	△296	△275	△21	
皆山	3,368	3,417	3,356	3,373	0.1	△1.5	1.7	5	△51	56	
安寧	1,880	1,945	1,918	1,955	4.0	△6.2	10.2	75	△117	192	
梅逕	694	697	685	699	0.7	△6.8	7.5	5	△47	52	
大内	4,877	4,857	4,704	4,499	△7.8	△4.8	△3.0	△378	△234	△144	
七条	7,890	7,939	7,982	7,961	0.9	△2.1	3.0	71	△169	240	
西大路	3,770	3,937	4,251	4,131	9.6	△1.5	11.1	361	△58	419	
七条第三	7,742	7,981	8,811	8,824	14.0	1.4	12.6	1,082	109	973	
光徳	6,560	6,788	6,598	6,527	△0.5	△1.2	0.7	△33	△78	45	
淳風	2,338	2,431	2,320	2,389	2.2	△9.5	11.7	51	△222	273	
醒泉	4,621	4,771	4,912	5,000	8.2	△2.7	11.0	379	△127	506	
郁文	3,618	4,174	4,298	4,324	19.5	△3.3	22.8	706	△120	826	
格致	4,308	4,666	4,475	4,581	6.3	0.8	5.5	273	36	237	
成徳	2,654	3,054	3,096	3,069	15.6	3.2	12.4	415	85	330	
豊園	2,826	3,009	3,008	2,997	6.1	△4.1	10.2	171	△117	288	
開智	2,018	2,103	2,062	2,046	1.4	△5.5	6.9	28	△111	139	
永松	1,813	2,160	2,122	2,090	15.3	△0.3	15.6	277	△5	282	
有隣	4,283	4,450	4,539	4,563	6.5	0.02	6.5	280	1	279	
稚松	1,950	2,001	1,955	1,917	△1.7	△5.0	3.3	△33	△98	65	
菊浜	1,963	1,909	1,702	1,716	△12.6	△11.9	△0.7	△247	△234	△13	
崇仁	1,649	1,403	1,380	1,284	△22.1	△21.5	△0.6	△365	△355	△10	
南区	98,744	99,927	101,970	101,628	2.9	△1.7	4.7	2,884	△1,716	4,600	
九条塔南	7,284	7,307	7,135	7,044	△3.3	△7.4	4.1	△240	△538	298	
南大内	3,157	3,066	2,910	2,951	△6.5	△8.7	2.2	△206	△274	68	
梅逕	1,135	1,129	1,013	963	△15.2	△4.5	△10.7	△172	△51	△121	
東梅逕	345	356	313	304	△11.9	△8.4	△3.5	△41	△29	△12	
九条	1,999	1,872	1,780	1,723	△13.8	△13.9	0.1	△276	△277	1	

対象区域等	国勢調査人口				推計人口	平成22年・令和4年の比較					
	平成22年 10月1日	平成27年 10月1日	令和2年 10月1日	令和4年 10月1日		増減率	うち自然動態		増減数	うち社会動態	
							うち自然動態	うち社会動態		うち自然動態	うち社会動態
九条弘道	2,594	2,733	2,538	2,481	△4.4	△6.6	2.2	△113	△170	57	
山王	3,972	3,787	3,502	3,355	△15.5	△12.2	△3.4	△617	△483	△134	
陶化	4,967	4,858	4,534	4,619	△7.0	△12.4	5.4	△348	△614	266	
東和	7,386	7,410	7,382	7,740	4.8	△6.0	10.8	354	△440	794	
上鳥羽	8,625	8,885	8,953	8,775	1.7	△1.5	3.2	150	△130	280	
久世	21,146	21,949	24,341	24,307	14.9	7.5	7.4	3,161	1,593	1,568	
祥栄	7,319	7,106	7,180	7,011	△4.2	△3.8	△0.4	△308	△279	△29	
吉祥院	10,494	10,830	11,391	11,118	5.9	0.9	5.0	624	99	525	
祥豊	8,767	8,991	9,360	9,473	8.1	3.3	4.7	706	293	413	
唐橋	9,554	9,648	9,638	9,764	2.2	△4.4	6.6	210	△416	626	
右京区	202,943	204,262	202,047	200,317	△1.3	△3.2	1.9	△2,626	△6,404	3,778	
京北以外	197,310	199,135	197,551	196,010	△0.7	△2.7	2.1	△1,300	△5,418	4,118	
太秦	19,082	19,254	19,106	18,991	△0.5	△2.4	1.9	△91	△455	364	
南太秦	5,613	5,258	5,126	4,870	△13.2	0.6	△13.8	△743	33	△776	
嵯峨野	14,099	14,266	13,946	13,673	△3.0	△4.6	1.6	△426	△652	226	
常磐野	14,947	14,452	13,693	13,618	△8.9	△1.8	△7.1	△1,329	△264	△1,065	
花園	5,880	6,054	5,937	5,808	△1.2	△5.9	4.7	△72	△346	274	
安井	7,043	7,093	7,651	7,652	8.6	△3.5	12.2	609	△247	856	
山ノ内	9,740	10,036	10,238	10,279	5.5	△1.0	6.6	539	△102	641	
西院第一	7,739	8,036	7,875	7,756	0.2	△2.6	2.8	17	△198	215	
西院第二	13,425	15,177	15,583	15,854	18.1	6.3	11.8	2,429	842	1,587	
西京極	13,587	13,424	13,272	13,133	△3.3	△1.6	△1.8	△454	△214	△240	
西京極西	4,888	4,855	5,174	5,172	5.8	0.6	5.3	284	27	257	
葛野	11,806	12,277	12,334	12,383	4.9	0.5	4.4	577	58	519	
梅津	10,752	11,130	11,036	10,969	2.0	△0.6	2.6	217	△60	277	
北梅津	8,877	8,771	8,434	8,484	△4.4	△4.4	△0.1	△393	△387	△6	
嵐山	8,804	8,650	8,366	8,178	△7.1	△5.0	△2.1	△626	△441	△185	
広沢	7,810	7,708	7,714	7,545	△3.4	△5.4	2.0	△265	△425	160	
嵯峨	12,063	11,847	11,633	11,592	△3.9	△8.4	4.5	△471	△1,013	542	
水尾	56	48	38	38	△32.1	△28.6	△3.6	△18	△16	△2	
岩陰	218	207	186	177	△18.8	△50.0	31.2	△41	△109	68	
高雄	2,337	2,290	2,244	2,134	△8.7	△6.6	△2.1	△203	△154	△49	
宇多野	9,520	9,740	9,689	9,585	0.7	△7.2	7.9	65	△685	750	
御室	9,024	8,562	8,276	8,119	△10.0	△6.8	△3.3	△905	△610	△295	
京北	5,633	5,127	4,496	4,307	△23.5	△17.5	△6.0	△1,326	△986	△340	
黒田	329	298	223	209	△36.5	△20.7	△15.8	△120	△68	△52	
山国	1,292	1,207	1,131	1,111	△14.0	△17.6	3.6	△181	△228	47	
弓削	1,716	1,559	1,330	1,267	△26.2	△17.6	△8.6	△449	△302	△147	
周山	1,385	1,280	1,123	1,083	△21.8	△14.9	△6.9	△302	△206	△96	
宇津	460	401	348	309	△32.8	△21.3	△11.5	△151	△98	△53	
細野	451	382	341	328	△27.3	△18.6	△8.6	△123	△84	△39	
西京区	152,974	150,962	149,837	146,736	△4.1	△0.5	△3.5	△6,238	△822	△5,416	
本所	97,947	98,720	100,045	98,357	0.4	1.8	△1.3	410	1,725	△1,315	
嵐山東	7,417	7,247	7,129	7,126	△3.9	△5.2	1.3	△291	△386	95	
松尾	12,413	12,095	12,205	11,899	△4.1	2.2	△6.4	△514	277	△791	
松陽	9,743	9,872	9,890	9,729	△0.1	0.2	△0.4	△14	23	△37	
桂川	10,214	10,473	10,752	10,587	3.7	3.5	0.2	373	353	20	
桂徳	6,695	7,265	7,579	7,432	11.0	8.7	2.3	737	583	154	
桂	8,513	8,411	8,385	8,135	△4.4	△4.1	△0.4	△378	△347	△31	
桂東	9,452	9,568	9,880	9,780	3.5	4.0	△0.5	328	379	△51	

対象区域等	国勢調査人口				推計人口	平成22年・令和4年の比較					
	平成22年 10月1日	平成27年 10月1日	令和2年 10月1日	令和4年 10月1日		増減率	うち自然動態		増減数	うち社会動態	
							うち自然動態	うち社会動態		うち自然動態	うち社会動態
川岡	10,899	11,113	11,178	11,062	1.5	2.1	△0.6	163	225	△62	
川岡東	7,929	8,049	8,142	7,949	0.3	8.2	△8.0	20	652	△632	
檉原	14,672	14,627	14,905	14,658	△0.1	△0.2	0.1	△14	△34	20	
洛西	55,027	52,242	49,792	48,379	△12.1	△4.6	△7.5	△6,648	△2,547	△4,101	
大枝	6,407	6,302	6,086	6,095	△4.9	3.2	△8.1	△312	206	△518	
桂坂	11,667	11,648	11,121	10,780	△7.6	△2.9	△4.7	△887	△336	△551	
新林	8,350	7,927	7,557	7,437	△10.9	△2.9	△8.1	△913	△240	△673	
福西	6,985	6,388	6,070	5,784	△17.2	△7.7	△9.5	△1,201	△539	△662	
境谷	6,421	5,861	5,464	5,230	△18.5	△6.5	△12.1	△1,191	△415	△776	
竹の里	5,886	5,225	4,966	4,673	△20.6	△6.7	△13.9	△1,213	△397	△816	
大原野	9,311	8,891	8,528	8,380	△10.0	△8.9	△1.1	△931	△826	△105	
伏見区	284,085	280,655	277,858	274,317	△3.4	△3.3	△0.2	△9,768	△9,287	△481	
本所	167,819	166,367	165,394	163,171	△2.8	△1.6	△1.1	△4,648	△2,730	△1,918	
竹田	11,373	11,660	11,784	11,815	3.9	3.6	0.3	442	410	32	
住吉	9,346	9,000	9,198	9,135	△2.3	△3.1	0.8	△211	△287	76	
板橋	12,707	12,780	12,755	12,758	0.4	△2.5	2.9	51	△317	368	
下鳥羽	9,290	9,000	8,788	8,561	△7.8	1.5	△9.3	△729	137	△866	
久我	10,949	11,293	11,024	10,948	△0.01	2.6	△2.6	△1	280	△281	
久我の杜	7,753	8,273	8,161	8,090	4.3	5.2	△0.9	337	406	△69	
羽束師	10,273	10,900	10,982	10,905	6.2	5.0	1.1	632	517	115	
淀	8,330	8,002	8,327	8,387	0.7	△2.7	3.4	57	△226	283	
美豆	6,353	6,038	5,545	5,339	△16.0	△4.5	△11.5	△1,014	△286	△728	
納所	5,734	5,536	5,541	5,445	△5.0	△4.9	△0.1	△289	△283	△6	
横大路	4,703	4,829	5,003	4,863	3.4	0.6	2.8	160	28	132	
南浜	13,417	13,186	13,222	13,052	△2.7	△3.9	1.1	△365	△519	154	
向島	6,080	5,878	5,664	5,530	△9.0	△4.9	△4.1	△550	△299	△251	
向島南	9,454	8,924	8,663	8,468	△10.4	△5.6	△4.8	△986	△532	△454	
向島二ノ丸	5,493	4,981	4,505	4,260	△22.4	△7.7	△14.8	△1,233	△421	△812	
向島二ノ丸北	3,394	3,187	3,017	2,961	△12.8	△8.4	△4.3	△433	△286	△147	
向島藤ノ木	4,773	4,296	3,684	3,388	△29.0	△8.3	△20.7	△1,385	△397	△988	
桃山	12,455	12,400	12,628	12,472	0.1	△2.6	2.7	17	△321	338	
桃山東	7,394	8,031	8,626	8,492	14.8	0.9	13.9	1,098	70	1,028	
桃山南	8,548	8,173	8,277	8,302	△2.9	△4.7	1.8	△246	△404	158	
深草	61,678	61,632	61,672	61,847	0.3	△5.0	5.3	169	△3,076	3,245	
稲荷	4,993	4,811	4,633	4,723	△5.4	△8.6	3.1	△270	△427	157	
砂川	14,384	14,280	13,644	13,904	△3.3	△5.7	2.4	△480	△820	340	
深草	18,991	19,393	19,609	19,555	3.0	△4.9	7.9	564	△940	1,504	
藤ノ森	15,917	15,627	16,102	15,840	△0.5	△4.7	4.2	△77	△752	675	
藤城	7,393	7,521	7,684	7,825	5.8	△1.9	7.7	432	△137	569	
醍醐	54,588	52,656	50,792	49,299	△9.7	△6.4	△3.3	△5,289	△3,481	△1,808	
北醍醐	3,813	3,706	3,812	3,761	△1.4	△15.6	14.2	△52	△593	541	
醍醐西	5,121	4,821	4,415	4,162	△18.7	△12.7	△6.1	△959	△649	△310	
醍醐	6,231	6,238	5,982	5,918	△5.0	△3.5	△1.5	△313	△220	△93	
池田	6,303	5,921	5,391	5,167	△18.0	△6.2	△11.8	△1,136	△392	△744	
池田東	4,910	4,596	4,678	4,573	△6.9	△4.4	△2.5	△337	△215	△122	
小栗栖	3,202	2,759	2,346	2,127	△33.6	△7.3	△26.3	△1,075	△234	△841	
小栗栖宮山	4,702	4,522	4,386	4,185	△11.0	△4.7	△6.3	△517	△219	△298	
石田	5,186	4,952	4,781	4,571	△11.9	△6.4	△5.4	△615	△333	△282	
日野	8,435	8,527	8,403	8,301	△1.6	△1.6	△0.04	△134	△131	△3	
春日野	6,685	6,614	6,598	6,534	△2.3	△7.4	5.1	△151	△495	344	

国勢統計区（元学区）における集計に関する留意点

1 国勢統計区の区域について

国勢統計区の区域は、国勢調査ごとに、地域の実情（区画整理事業、新築マンション建築や分譲地の造成、自治会区域の見直し等）に合わせて見直される場合がありますので、一部の国勢統計区については、変動の様子を分かりやすくするため、以下のとおり集計しております。

なお、国勢統計区の区域に変更があった場合でも、無人区域であり人口に影響を及ぼさない場合や、変更があった区域が基本単位区未満の狭小な区域であるため人口の抽出が不可能な場合については、国勢統計区人口の組み替えたうえでの集計は行っておりません。

（1）左京区岩倉地区の国勢統計区（3統計区：岩倉北、明德、岩倉南）

平成27年国勢調査時に旧岩倉国勢統計区を3つに分割することにより新設された国勢統計区であり、例外的に、平成27年から令和4年の7年間の期間としている。

（2）平成22年の区域が最新（令和2年）の区域と異なる国勢統計区（10統計区）

令和2年国勢調査時における国勢統計区の区域を基礎とし、平成22年国勢調査時の区域がそれと異なる場合は、平成22年国勢調査の人口を、令和2年国勢調査の国勢統計区の区域に組み替えたと集計している。

区	国勢統計区	統計区の見直し内容
上京	小川、室町	平成27年国勢調査時：室町の11町を小川へ編入
左京	明德、岩倉南	令和2年国勢調査時：明德の一部を岩倉南へ編入
山科	勧修、山階南	平成27年国勢調査時：勧修の一部を山階南へ編入
下京	大内、淳風	平成27年国勢調査時：淳風の6町を大内へ編入
右京	西院第一、葛野	令和2年国勢調査時：西院第一の一部を葛野へ編入

2 国勢統計区の自然動態について

国勢統計区（元学区）集計における自然動態数は、各国勢統計区における住民基本台帳上の自然動態（出生数－死亡数）を示しています。

なお、平成22年国勢調査以降に区域変更が行われた国勢統計区における、変更区域に基づく自然動態数の組み替えたうえでの集計は行っておりません。

3 国勢統計区の社会動態について

国勢統計区（元学区）集計における社会動態数の算出方法は以下のとおりです。

$$\text{社会動態数} = (\text{令和4年推計人口} - \text{平成22年国勢調査人口}) - \text{自然動態数}$$

なお、当社会動態数は国勢調査結果に基づき算出した推計値であり、本市がこれまで公表してきました住民基本台帳の記録に基づく社会動態数とは異なります。

